

早稻田學報

大正十年三月二十二號 二月十日發行 每月一十日發行

高等學院第二部の新設

目次

理事 田中穂積

校報

學部長會議——定時維持員會——各學部教授會——高等師範部教授會——聽講生規定及試驗成績發表方法に關する審査委員會——高等豫科教授會——政治經濟學部及法學部聯合教授會——私立大學幹事會——機械工學部後援會——工手學校進級試驗及卒業式——大隈侯爵家の客附——近衛公爵家の寄贈——平沼學長渡鮮紀程——德永博士の渡歐と山本博士の工手學校長代理——助教・講師・主任及講師辭任——評議員囑任——高等學院・專門部及高等師範部學生募集——圖書館報告

校友會報

阪神聯合稻保會——大阪早稻田文科會新年會——理工科出身中京同窓會——株式早稻田會新年例會——勸銀早大會——室蘭校友會新年會——坂井氏歸朝歡迎會——嘉應校友會

校友面影

新歸朝者

助教授 黑川 兼三郎氏

校友動靜

竹内松治氏の海外視察——澁江敏夫氏——留學生堤秀夫氏及末高信氏の出發——黑川兼三郎氏の歸朝——田中周衛氏の英米出張——大澤一郎氏より——峯好次郎氏より——業務移動——轉居——其他

學會會合

トルストイ十年祭

學生會合

別機級會——廣告研究會——越佐會秋季大會並に高井忠夫君送別會——早稻田實生會新年會

雜錄

高等學院第二期建築工事——野球部の米國行——基金管理委員村井吉兵衛氏の大手術——小室教授の出發——德永博士・堤教授及末高信氏の送別會——服部教授の出張講演——講師桑木博士及杉森教授の地方講演——田井善道氏送別會——師岡助教・嚴父の逝去——田中小太郎氏令夫人の逝去——舊講師大場博士逝去——小使鮎川庄太夫の死去——水泳部宿舍新築資金募集

大正九年 本會維持費贈出者氏名報告

東京牛込

早稻田大學校友會

電話五三〇〇番

東京八八九番口

意見

高等學院第二部の新設

理事 田中穂積

新大學の實施と共に我が學園改造の第一着手として、曩きに高等學院の新設を企て、廣く天下に資金を募集して、大正八年夏早稻田大學より二三丁を隔てた穴八幡前に約一萬坪の地をトして校舎の新築に着手し、昨春第一期工事の終はると同時に、此處に第一回入學生六百名を收容し更に引續て着手した第二期工事も愈々此三月初旬を以て竣工し、是れにて新築校舎は全部落成に至るから四月には又第二回入學生六百名を新たに收容する筈であるが、年々收容する六百名の入學生は、高等學院の修業年限三ヶ年の間には病氣其他種々の故障の爲めに段々減少することを見なければならぬ。

然るに我が早稻田大學は從來とも大學部各科に年々一千二百三百名乃至一千五百名の學生を收容したのであつて、夫れだけの教育設備があるに拘はらず、僅かに其三分の一に過ぎざる五百名位の少數の收容を以て満足するとは何としても出来ない譯

者の規定に依つたものが新設せんとする學院第二部である。

而して新大學令が何故に斯の如く三ヶ年制度の大學豫科と同時に二ヶ年制度のものも亦之れを認めたかと云ふに、是れは畢竟從來行はれた大學卒業に至るまでの年限が長きに失し可惜青春の時期を學校教育の爲めのみに費すと云ふ世論の攻撃に顧み

て、せめて一ヶ年其年限を短縮せんとする希望に出でたものに外ならぬ即ち從來は大學へ入るに中學に五ヶ年次で高等學校に三ヶ年合せて八ヶ年を費したものが、新令によれば中學四年終了後更に三ヶ年の課程を経て、或は又中學卒業後大學豫科二ヶ年の課程を経て、共に七ヶ年にして大學へ入ることが出来るやうになつたのであるが、此改正は一面

修學年限を短縮する効果があつたと同時に、他の一面に於ては偶然にも中學教育を甚しく攪亂する弊害を生じたのである。

何となれば從來中學卒業生のみを高等學校に收容した時代に於ても、中學の生徒は第五學年になれば最早高等學校其他の入學受験準備に忙殺されて他を顧みる暇がないと云ふ有様であつたが、新令發布以來は第四學年の生徒から此入學受験準備に熟中して中學所定の學科は手に着かぬと云ふ有様になつて來た、そこで現に昨年春東京に開かれた中學校長會

議に於ては中學の修業年限を總て四ヶ年に短縮するか、然らざれば大學豫科若くは高等學校の入學資格を復舊して從來の通り中學卒業以上とするにあらざれば、此混亂を救済するに由なしと云ふ議論頗る喧しかつた併しながら朝令暮改の輕舉を避くるが爲めには、此處數年間之を實驗に徴して徐ろに新令の可否を決しなればならぬ。

そこで我が學園既設の高等學院の如く中學四年の修了者若くは之と同等以上の學力あるものを收容して之れに三ヶ年の高等普通教育を授けると、中學五年の卒業生若くは之と同等以上の學力あるものを收容して之れに二ヶ年の高等普通教育を授けると、孰れが大學の基礎教育として其完全を望み得べきかと云ふことが自から眼頭に横はる重大問題となつて來るのであるが、修業年限は孰れにしても共に七ヶ年であつて其間に長短の別はないのであるから、此問題に到底議論によつて其可否の決せらるべき筈なく、是非其實驗に徴して其成績を見るより外に名案はないのである、而して之れを實驗に徴して其優劣を判斷すると云ふには、同一の學園に於て之れを試むるにあらざれば、實驗の正確を期する所以でないことは素より論を俟たぬ、是れが即ち我が學園が此度既設の高等學院第一部の外に、二ヶ年制度の第

二部を新設するに至つた所以であつて、依て以て一面に於ては大學各學部の學生數を増加し從來の教育設備を十分に活用すると同時に、他の一面に於ては庶幾くは以て我が教育界の大なる謎である此難問題を實驗に徴して解決せんとする希望に外ならぬ、從て第一高等學院の外に別に第二高等學院としないで、故らに既設の分を高等學院第一部と稱し新設の分を第二部と稱し、此處數年間慎重なる比較研究を重ねる積りであるが、愈々其實驗に依つて優劣の明かになつた曉は、三ヶ年制度が二ヶ年制度が孰れが其一方に歸着するのであつて茲に初めて我が教育界も正確なる指針を得ることが出来るであらうと思ふ。

而して既設の高等學院第一部は數地の關係が何分今日以上に擴張を容さない状態になるから、第二部の爲めには別に敷地をトして新たに校舎を建築せざるを得ないが、本年度にあつては第一部の定員一千八百名の中昨年の第一回入學生と本年の第二回入學生とを合せても一千二百名に止まり、教室に尙ほ六百名を入る可き餘裕があるから、當分は第二部の入學生も既設の第一部校舎に收容する計畫である併しながら是れは長くと一年限りのことであるから、差迫つて第二部校舎の設計にも着手せざるを得ないのであつて、學院第一

部の爲めに既に約六十萬圓の巨資を投じたが、第二部の爲めにも亦約四十萬圓の費用を投ぜざるを得ないから、學園改造の爲めには愈々益々深厚なる天下の同情者諸君の後援に俟つ更に切なるものあるを感ぜざるを得ない。

最後に學園改造の大事業が幸に満天下の同情者諸君校友諸君の後援に依つて總て順調に進みつ、あることを此機會に於て茲に諸君に報告し得るのは最も欣幸とする所であつて、既設の高等學院は獨り其設備に於てのみならず、殊に院長教頭を初めとして優秀なる教授諸君を網羅し得たことは、敢て天下に誇り得べしと確信するのであつて、更に又新たに高等學院第二部を設け、之と同時に舊制度の大學部は新大學令に依つて之れを根本的に改造し、各學部の専任教授を増加するが爲めに一昨年來派遣して現に海外にある留學生諸君の數十五名、新に派遣せんとして既に人選も確定し維持員會の協賛をも經たもの五名は孰れも最近出發せらるべく、尙ほ今後とても事情の許す限りは一人も多く留學生を出したい希望であるが、法令に依つて強ひられた九十萬圓と云ふ巨額の國庫供託金の準備も滞りなく進みつ、あるのは偏に諸君が後援の資であつて、洵に感謝に堪へざる次第であるが、翻て早稻田大學の使命の重且大にして

前途の遼遠なるに想到すれば、更に更に深厚なる諸君の援助を切望する

と同時に、我々も亦益々驚鈍に鞭打つ覺悟である。

校 報

●學部長會議

一月十三日、各學部々長會議を開き、聽講學生に關する件につきて協議せり。

●定時維持員會

一月十五日午後二時より定時維持員會を開く。大隈會長缺席の爲め高田博士代はりて議事を司る。

當日の出席者は

高田。市島。昆田。上原。宮田。金子。中島。平沼。鹽澤。田中。

各維持員なりき。

●高等師範部教授會

一月十八日正午より高等師範部教授會を開き、入學試驗施行に關する件につきて協議す。

●各學部教授會

文學部は一月十七日、政治經濟學部法學部、商學部、理工學部は十八日各教授會を開き、聽講生規定に關する調査委員の選定を行ふ。

各學部該委員は左の如し、

政治經濟學部

鹽澤教授

五來教授

法學部

中村(進午)教授

遊佐教授

文學部

片上教授 煙山教授

商學部

小林(行昌)教授 北澤教授

理工學部

山本(忠興)教授 小林(久平)教授

尚該調査委員會には、各學部々長も之れに加はること、す。

●聽講生規程及試驗成績發表方法に關する審査委員會

一月廿二日午後一時より、聽講生規程審査委員會を開き、平沼學長、淺野、田中の各部長、寺尾教務主任、鹽澤、山本(忠興)、遊佐、北澤、小林(行昌)、煙山、五來、片上の諸委員出席、該規程に關して決議し、尙試驗成績發表方法に關する件につきて協議せり。

●高等豫科教授會

一月廿五日、高等豫科教授會を開き、第三部(文學部)第二外國語及第三學試驗期日に關する件其他につきて協議せり。

●政治經濟學部及法學部聯合教授會

一月二十八日、政治經濟學部及法學部聯合教授會を開き、專門部政治經濟科及法律科の學科課程に關する件につきて協議す。

●私立大學幹事會

客年十二月三十日、私立大學幹事會を開く。本大學よりは、前田幹事出席。

一月二十六日開會の私立大學幹事會には、前田幹事及蟻崎庶務主任出席せり。

●機械工學部後援會

機械工學部卒業生及同關係者には、曩頃後援會なるものを組織し、同學部向上發展の爲め、研究及設備費補助の目的を以つて基金募集の計畫を立てたり。詳細の規約は次號に譲る。

●工手學校の進級試驗及卒業式

附屬工手學校は、一月二十一日より進級試驗を施行し、二月十三日卒業式を舉行する豫定なり。

●大隈侯爵家の寄附

今回本大學は、大隈侯爵家より、高等豫科の門前(舊同文館の店前)の土地一百二十六坪六合を一萬二千六百六十圓にて譲受ることとなれり。右に對し侯爵家よりは購入代金の中へ金六千六百六十圓を寄附せらる。

●近衛公爵家の寄贈

今回近衛公爵家より、其國寶たる所藏の舊記古文書を石版摺なせる、「陽明世傳」九十二枚に解説一冊を添へて、本大學附屬圖書館に寄贈せられたり。

學長渡鮮紀程

—東京出發京城着車—

前號に記載せし如く、客臘朝鮮總督府に於いて臨時朝鮮教育調查委員會を設け、平沼學長は其委員の一人に擧げられたるが、本年一月七日より京城總督府に於いて該會第一回會議を開かることとなり、學長は同月四日午後五時二十分、鎌田慶大學長、澤柳博士、三土忠造三氏とともに東京驛を出發せらる。土屋副幹事、蟻崎庶務課主任、都築會計課員並に村田攪雄、田中誠一の兩氏見送人の中に在り。發車に際して各新聞社寫眞班の包圍攻撃を受け、朝鮮京城熊部農場主熊部利平氏國府津まで同行せり。

五日午前十一時十五分汽車岡山に着するや、校友井口謹一郎、鹽津猪十太の兩氏並に中國民報社員原貫一郎、山陽新報社員藤井陽夫二氏及田中惠三郎氏の訪問を受け、午後八時五十分下關驛に着すれば、校友にして税關吏員たる上野唯勝氏の出迎を受け、關釜連絡船高麗丸に乗船せらる。

海上平穩、六日午前九時釜山棧橋に着し、汽車に移乗するや、京城日報社員高賀貞雄(校友)同社釜山支局員龜井才藏、同友永武城、朝鮮新聞社釜山支局員熊野御堂權次郎、同濱崎豐吉、釜山日報社員柄澤四郎、同

不破昌男諸氏來訪し、高賀氏は京城まで同伴し、餘は午前九時五十分釜山發車と共に辭去せり。

午後四時十分大田驛には東亞經濟會主たる校友板橋菊松氏京城より出迎へ、京城高等學校教授兼主事石村安三郎、大田中學長關本幸太郎、同校教諭堤政助、同安藤文郎諸氏車中來訪し、石村氏は京城まで、關本氏は鳥致院まで同行せり。鳥致院にては同驛々長校友櫻井文太郎氏車中來つて敬意を表す。

午後七時六分水原驛に於いて朝鮮新聞社員宮崎義男、蒲生隆宏の兩氏永登浦驛にて總督府學務局學務課長弓削幸太郎、東亞經濟會主幹日下部景勝の二氏來つて迎接し、京城まで車を同じうす。午後七時五十分一行恙なく南大門驛に着し、官民多數の出迎を受け、新聞社寫眞班の爲に復たレンズの人となり、自動車に驅つて朝鮮ホテルに投ず。來つて敬意を表せしもの學務局長柴田善三郎、法務局長横田五郎、學務局編輯課長小田省吾、視學官上田復一郎、同田中廣吉、編修官立柄教俊、京城中學校長柴崎鐵吉、龍山中學校長福島亦八朝鮮新聞副社長校友權藤四郎介諸氏なり。板橋氏夜食を參らすとあつて共に自動車にて同氏の自宅に至り。蒲生、石村、日下部三氏と食卓を共にし、十一時半旅館に歸る。

會議第一日の七日及講演

朝日本弘道會京城支會長荒浪平次郎氏の訪問を受け、午前九時半視學官田中廣吉氏の案内にて總督府に至り、午前十時第一會議室に於ける會議に臨む。

正午總督府府齋藤實氏の招待により總督官邸に於いて午餐の饗應を受け、午後一時より再び會議、四時に

の後を受け、「經濟的階級戰爭に就いて」と題し、談論約一時半、聽衆堂に滿つ。其數二千餘名と註せらる。近來稀なる盛會なりき。

八日の講演及内鮮教育者懇親會

八日の來訪者は私立中央學校長崔斗善(校友)京城工業專門學校長三山



朝鮮ホテル内萬歲門前に於ける平沼學長と京城校友會員

至つて散會す。

此日來訪せるもの校友にては鮮干全、金遠浩、有賀啓太郎、宮本繁造諸氏にして、京畿道知事工藤英一氏亦來つて遠來の勞を慰めらる。

午後八時公會堂に於ける東亞經濟會主催の講演會に臨む。三土忠造氏

會堂にて、聽衆は前日より尙多く座席なくして肩摩の狀を呈したり。澤柳博士の講演了つて學長之れに次ぐ。題は「變時に於ける三種の危險思想」にて、講演は約一時半を費したり。

午後九時半頃鮮人教育者の招に依り、仁寺洞なる明月館に赴き、朝鮮料理の饗應を受く。共に招かれたるは鎌田慶大學長、澤柳博士、小西京大教授にて、話題は徹頭徹尾朝鮮教育問題に係り、忌憚なき意見を交換したり。此夜主人側の人々は、

私立普成法律商業學校長高元勳(調查會委員)●私立普成高等學校長鄭大鉉●私立敬新學校教務主任千潤錫●同校教員洪基環●私立中東學校長崔奎東●私立養生高等普通學校長嚴柱益●同學監安鍾元●私立敬文學校長任環宰●私立同德女學校長朴魯相●私立培材高等普通學校長教師姜邁●同崔在鶴●私立中央學校長崔斗善(校友)の諸氏にて、主客歡を盡して散會せしは夜十一時半を過ぎたり。

九日の招筵及來訪者

九日の會議は正午を以て終り、昨夜内地委員を招飲したる鮮人教育者を朝鮮ホテルに招き、午餐を饗して答禮の意を表したり。主人側は前夜招を受けたる四名と、外に江原素六翁及三土忠造氏も亦陪せり。三時に至つて散會。

此日の來訪者は衆議院議員加藤久米四郎、龍山中學校教諭近藤錦四

郎(校友)同小田原勇(同)朝鮮民報東京支局員砂田翠月、同社員原辰助、元時事新報出張員長野直彦等の諸氏なり。砂田、原兩氏は大邱府官民の代理として、學長に歸途少時なりとも同地に立寄られんことを懇請せり。

京城校友會

京城校友會支部にては、九日午後三時より、朝鮮ホテルに於て朝鮮教育調查會委員として來城中の平沼學長を主賓として臨時校友會を開き茶菓會を催したり、權藤四郎氏歡迎の辭を述べ、學長一場の挨拶をなし、朝鮮教育に論及し、互ひに忌憚なき抱負と親みある懷舊談に時を移し、記念撮影をなし、盛況裡に散會せり。因に當日の來會者は左の如し。

來賓 平沼學長

△校友 板橋 菊松、中島 司、落合 兼光、福田 市平、戸田 常次、竹原文太郎、武田 田臣、崔 斗善、金 遠浩、小田原 勇、石田 氏秀、橘 圓壽、鷺野 惣一、高賀 貞雄、權藤四郎介、仙波潤一郎、住求 惇二、近藤錦四郎、有賀啓太郎、橫塚 茂平、宮本 繁造。

朝鮮銀行の歡迎宴

朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は、今

回教育調査會議に列したる委員及總督府學務關係者の諸氏を千代本樓に招待し、午後六時より盛大なる宴會を催したり。宴會に於て舞樂絃歌相踵ぎ、十時各散を盡して歸路に就きぬ。

會議終了の十日及講演、招宴

會議は例によつて午前十時より始まり、午後三時半に互り、次回は東京に於いて開催のことに決し、第一回の終結を告げたり。此日旅寓に來訪せしもの校友に在つては張德秀、金性洙、朝鮮新聞社長牧山耕造、同副社長藤原四郎介の諸氏にして、學務局長及同局員並に西鮮殖産鐵道會社員賀田直治氏も亦來訪せり。

午後四時學長は豫ての約に従ひ、京城俱樂部に於ける日本弘道會支會の茶話會に臨み、一場の講演を試み會員と共に記念撮影をなし、茶菓の饗應を受く。此日支會員の來集せるもの左の如し。

大塚米藏●國井泉●西田福市●石川政次郎●妹尾彰●松本七郎●大坂金太郎●岡村介石●大橋次郎●石塚藤太郎●片桐要吉

午後六時辭して政務總監水野鍊太郎氏の招宴に赴く。招かれたるものは調査會委員及學務局吏員、會場は官邸にて、餘興に教育上の映畫を以てせる活動寫眞あり。今回の調査會議の狀況を寫したるものの中に在りて、大に主客の感興を惹きたり。

九時花月樓に於ける東亞經濟會主催の宴會あり。學長は三土忠造氏と共に之に列し、十一時散を盡して歸る。

京城出發大邱集會及歸京

學長は委員一行に先ち、十一日午前七時二十分南大門を發す。驛頭行を送るもの

信原岩虎●田淵鐵●石鎮衡(調査會委員)●小田省吾●兒島元三郎●長野直彦●荒浪平次郎●板橋菊松●日下部景勝●妹尾彰●國井泉●高橋濱吉

の諸氏にて、校友宮本繁造、戸田常次の二氏は釜山棧橋まで見送られたり。午後三時三十九分大邱驛に着す。

府尹松井信助氏は砂田翠月及大邱岡山縣人會幹事渡邊三郎氏と共に迎へ、相携へて停車場樓上に至れば

直に食卓を開き、松井氏歡迎の辭を述べ、學長簡章に挨拶を兼ね朝鮮に於ける所感を述べらる。來會者は校友、岡山縣人、新聞記者及官民有志者にして、出迎の三氏を除き、其姓名左の如し。

裁判所通譯官藤付益吉●朝鮮殖産銀行員森島善一郎●朝鮮新聞大邱支局員渡邊比●大邱府協議會會長大興電氣株式會社取締役青木重信●木村竹太郎●上林嘉平●平野石造●杉原新吉●井上清●矢田實●時友幸平(以上岡山縣人)●朝鮮中央鐵道株式會社社員岩永重華●大興電氣株式會社社長小倉武之助●共同火災保險株式會社大邱代理店岩瀬正助●朝鮮中央鐵道株式會社支店人鈴木熊太郎●東條正平●釜山日報大邱支社長

増田虎太●吉村鎮雄●南滿洲鐵道會社京城管理局員小林國衛●大邱府協議會員、慶尙北道評議員韓翼東

歡談約一時にして、五時十分南大門よりの特急列車に乗り込み、今朝九時四十分京城發歸路に就きたる調査委員一行と合し、七時四十分釜山棧橋に着し、直ちに連絡船高麗丸に乗船し、宮本、戸田兩氏と袂を分ち、八時半解纜せり。

十二日午前七時半下關に着船、上野唯勝氏の出迎を受け、山陽ホテルにて朝饗後九時三十分急行列車にて歸京の途に就く。總督府よりは視學官田中廣吉氏屬僚一名を隨へて此の處まで同行せられたり。下關なる校友大塚祐壽氏夫人は夫君不在の故を以て代つて見送らる。

午後十時五十分大阪驛にて大塚祐壽氏の來訪を受け、翌十三日午後十二時五十分東京驛着、直ちに理事會議に臨まる。

●德永博士の渡歐と山本博士の工手學長代理

既報の如く探礦冶金學部學科主任工手學長德永博士は、學術取調の爲め二月十八日東京發、米國を経て歐洲に向ふ豫定なり。

同氏留守中、電氣工學部學科主任山本博士(忠興)代りて工手學長の仕事務を執ること、なれり。

●助教、講師、師範任及講

早稻田大學工學士 高田 勇雄氏

右囑任助教 電氣學擔任

法學博士 吉野 作造氏
右囑任講師 政治學擔任(浮田博士の代講)

工學士 吉原 重威氏
右囑任講師 探礦冶金學擔任(小室教授の代講)

工學士 吉田 謹平氏
右囑任講師 應用化學科塗料擔任

講 師 信貴覺次郎氏
右都合により講師を辭任す

●評議員囑任
神 戸 水野正巳氏

右評議員の任期満了のところ、神戶校友會より再選せられたるを以つて、曩きの維持員會に於て、改めて同氏に評議員を囑任せり。

●高等學院專門部及高等師範部學生募集

來學年度即ち本年四月入學を許可すべき高等學院第一部第二部、專門部、高師部各第一學年學生を募集す。受験資格、試験科目等は左の如し。尙詳細は別頁廣告欄に掲ぐ

△高等學院受験資格
(第一部)

一、中學校第四學年を修了したる者
二、高等學校尋常科を修了したる者
三、高等學校高等科入學試験に合格したる者
四、專門學校入學者檢定規程に依り試験檢定に合格したる者
五、高等學校高等科入學に關し指定を受けたる者

△高等學院受験資格
(第二部)

一、中學校を卒業したる者
二、專門學校入學者檢定規程に據り試験檢定に合格したる者
三、文部大臣に於て一般の專門學校の入學に關し中學校卒業者と同等以上の學力ありと指定したる者
四、甲種商業學校卒業生にして早稻田大學政治經濟學部若しくは商學部に進入の志望を有する者
五、同入學試験科目
(第一部) 中學四年修了程度

文科 國語(解) 漢文(解) 地歴
(日本史) 英語(英文和譯)
數學(代數) 英語(英文和譯)

理科 國語及漢文(解) 數學(代數)
物理(力学、彈性體) 化學
(物理、波動、電磁) 英語(英文和譯)
(生物、地質) 英語(英文和譯)

△專門部入學試験科目
政治經濟科 國語漢文(作文) 英語(英文和譯) 數學(算術)

六、文部大臣に於て一般の專門學校の入學に關し中學卒業者と同等以上の學力ありと指定したる者

七、甲種商業學校卒業生にして早稻田大學政治經濟學部、法學部及商學部に又甲種工業學校卒業生にして同大學理工學部に進入の志望を有する者

(第二部)

一、中學校を卒業したる者
二、專門學校入學者檢定規程に據り試験檢定に合格したる者
三、文部大臣に於て一般の專門學校の入學に關し中學校卒業者と同等以上の學力ありと指定したる者
四、甲種商業學校卒業生にして早稻田大學政治經濟學部若しくは商學部に進入の志望を有する者

△同入學試験科目
(第一部) 中學四年修了程度

文科 國語(解) 漢文(解) 地歴
(日本史) 英語(英文和譯)
數學(代數) 英語(英文和譯)

理科 國語及漢文(解) 數學(代數)
物理(力学、彈性體) 化學
(物理、波動、電磁) 英語(英文和譯)
(生物、地質) 英語(英文和譯)

△專門部入學試験科目
政治經濟科 國語漢文(作文) 英語(英文和譯) 數學(算術)

文科 國語(解) 漢文(解) 地歴
(日本史) 英語(英文和譯)
數學(代數) 英語(英文和譯)

理科 國語及漢文(解) 數學(代數)
物理(力学、彈性體) 化學
(物理、波動、電磁) 英語(英文和譯)
(生物、地質) 英語(英文和譯)

△專門部入學試験科目
政治經濟科 國語漢文(作文) 英語(英文和譯) 數學(算術)

文科 國語(解) 漢文(解) 地歴
(日本史) 英語(英文和譯)
數學(代數) 英語(英文和譯)

理科 國語及漢文(解) 數學(代數)
物理(力学、彈性體) 化學
(物理、波動、電磁) 英語(英文和譯)
(生物、地質) 英語(英文和譯)

△專門部入學試験科目
政治經濟科 國語漢文(作文) 英語(英文和譯) 數學(算術)

文科 國語(解) 漢文(解) 地歴
(日本史) 英語(英文和譯)
數學(代數) 英語(英文和譯)

理科 國語及漢文(解) 數學(代數)
物理(力学、彈性體) 化學
(物理、波動、電磁) 英語(英文和譯)
(生物、地質) 英語(英文和譯)

△專門部入學試験科目
政治經濟科 國語漢文(作文) 英語(英文和譯) 數學(算術)

商科 國語漢文(文作)英語(英文和譯和文英譯)

數學(算術代數) (併甲種商業學校卒業生)

法律科 四月中無試験入學を許可す。

△高等師範部

四月中無試験入學を許可す。
但満員の際は謝絶す。

圖
書
館
報
告

●本館十二月分閲覧統計左の如

開館日數二十八日

種別	人員	冊數
學生貸出	八、四〇人	一四、八四冊
特別貸出	四	一四
館外貸出	一五八	一、〇三
公衆貸出	六三九	九九八

一日平均 三〇人 六〇、三五

大正九年十二月分洋書新加統計

D	C	B	A	
政治	哲學	法律	歷史傳記	部門
一三	八	一九	五	部數
一四	九	三四	六	冊數
三		一二	一	部數
三		一一	二	冊數
一六	八	三〇	六	部數
一七	九	四	七	冊數
				合計

[illegible]

校友會報

◎ 阪神聯合稻保會

最近阪神地方在住損害保険に従事を饑み、十二月十日午後六時、堂島せる母校関係者約五拾を數ふる盛況たじ虎に忘年會を兼ねて久方振りの

聯合大會を開く。出席者は左の小人
數なりしも、隔意なき内輪同志の會
合として談笑湧き酒杯飛ぶ。餘興とし
て會員久米氏御得意の舞踊はあつ晴
なる腕前、立人も及ばぬほどにて一
大喝采を博す。會員八杉氏、伊藤氏
の謠曲は、日頃の御自慢とありて一
同懇望せしも拜聽するを得ざりしは
遺憾至極なりき。かくて、歡を盡し
て散會せしは九時過ぐる半。

科會の新年會とを兼て 天滿橋畔野田
屋樓上で開催した。

當日來會者左の如し(次第不順)

片上 伸	西尾 秀
稻 新一郎	服部 嘉香
秋山 成光	恒川祐次郎
小松 市郎	植村 定
西田眞三郎	豐岡佐一郎
大野木 繁	伊達 俊光(常任幹事)
廣石弘三次郎	坪内 士行(常任幹事)
笹川佐々次郎	菅原英次郎(當番幹事)

出席者

中川銑三郎君(帝海) 松村源藏君

(共同火災) 中島好太郎君(豊國)

寺田廉平君(共同火災) 八杉良宗

君(日海) 伊藤孫作君(大倉商事)

重富監之介君（東邦）

清水武雄君（共同火災） 井平亮藏

君(日清火災) 佐々木文作君(大

東火災エゼスト）伊原全郎君（東

京動產）橋本綱君（豐國火災工

久米安一君（マクドナル
ゼシト）

下保領部）京田部告（共同）

小野寺正郎吉(太平羊)(次)

（第不同）

(第二回)

て、又、同より、阪神中間の箇所を選び

人聯合會を開催することとし、尙

事を左の二氏に依頼せり。

伊原 全郎君 重富監之介 吾

(幹事報)

◎大阪早稻田文科會新年

二月六日午後六時から、
片上伸氏

來阪を機として片上氏歡迎會と文

會する者拾貳名、皆各方面の技術者として實務に従事し居るもの故、各人の實驗談や、設計上の注意又は學生時代に歸りて美しき早稲スピリットを發揮し、新も舊も共に胸襟を開きて大に快談、時の過るを知らず、時に我々三縣下に在住者の今後益々親交を圖ると共に、母校との連絡を期せんが爲め、早大理工科中京同窓會設置の議出で、満場一致を以て可決す尙ほも快談數刻、母校々歌を高唱して散會せしは正午十一時なりき。尙我々の會合を賛して名古屋市東海電機株式會社より金貳拾圓寄附せられたり。

本日の參會者氏名左の如し(伏屋記)
青木 榮吉 大橋 徳一 永田 益六郎
永井 新一郎 横田 精一 野々山 整一
井上 忠太 高橋 幸士 大林 茂夫
黒田 傳三 和田 信次 伏尾 秀雄

●第拾五回株式早稻田會 新年例會

一月十五日午後六時、牛込神樂坂常盤に於て第拾五回新年例會を開催す。集る者拾五名、席定まるや幹事の開會の辭あり、後幹事の改選を行ひ、幹事長に森盛一郎君、幹事に反町茂作君、野木福太郎君、野村龜藏君、小田井紫郎君、木下茂君、柏倉友之助君、萩谷信太郎君の諸氏當選せり。次て宴に移り、和氣霽々として且つ談じ且飲み、歡興の盡くるを同らず、多幸なる將來を祝福し、一知名殘惜く散會したるは正に十時半

なりき、當日出席者は左の如し。

反町 茂作 手塚 弘平 佐藤 雄一
森 盛一郎 野木福太郎 萩谷 潔
堀田 正由 木下 茂 藤井 英造
柏倉友之助 古田 泰介 小田井紫郎
鈴木 義孝 萩谷信太郎 柳澤隆次郎

●勸銀早大會

辭職せられた伊東繼司君の送別を兼ねて、一月十八日(火曜)第十五回列會を日比谷陶々亭に開く。街頭に面した廣間に食卓を据ゑて集ふもの十七名。毎日お互に顔は會してゐながら、母校といふ楔を中心としてのまどろには又新しき親し味懐し味が湧いてくるものだ。午後五時半席定まるや、田邊君の挨拶について伊東君の袂別の辭にうつる。サッポロの様な氏は沈痛な語で大に實業界に雄飛せらるべき決心を述べられた。ヌルイ湯から早く上れと教へてくれた支那料理の油切つたのや、しつこいのや唐草模様の皿が順々に廻されて芳醇な支那酒が草色の盃にそ、がれる。凡てのもの皆唐趣味異國情調といつたなかに、懷舊談も變つて面白。安東監査役の失敗談の艶つばい幕が伊東君によつて切つておとされる、山本君の學問打破論があり、山口君のシニツクがあり、影山君の茶目があり、富田君のオールド、ミス論があり、脂粉の香のない部屋は緊張して席みだれ盃盤飛んで感興つくとところを知らなかつた。酒つき食はて、伊東君の脚上げがあり、まだ

淺春の小寒い背を肩を抱いて思ひ思ひに散會した。當日出席者如左。

山本勝太郎(三九政) 瀬戸介爾(四〇商)
山田勝郎(四一政) 伊東繼司(四二政)
安東友哉(四四商) 岩崎泰治(四四商)
山口金伍(四四商) 富田達三郎(四五商)
松岡益雄(四商) 田邊虎三郎(四政)
仁平久純(六商) 渡邊隆郎(七政)
影山海一(七商) 上村壽夫(八商)
杉山申伍(八商) 戸谷梅彦(八商)
櫻井徳太郎(九商)

●室蘭校友會新年會

一月十九日午後五時より、室蘭區族亭常盤に於て早稻田會新年宴會を開催す。新入會員谷、服部、吉田の三氏を加へて出席者は左記十一名。

長尾誠一、猪野利猛、小野保太、太田定一、吉田 耕、服部友三郎(製鋼所)、白井貞一(三井物産)、手塚龍彦(實業所)、谷俊男(北日本釀造株式會社)、鈴木曉天。岩田月葉(室蘭毎日新聞社)

母校氣分を漂はすべく、校歌を高唱、宴酣にして餘興百出、十分の歡を盡して九時半散會せるが、本會を一層振興する爲め左の打合せをなしたり一、早稻田大學出身者及關係者を勧誘して會員を増加すること
二、本會の俱樂部を適當の場所に設置して祭日其の他自由に集合親睦を計ること
三、本年四月頃早稻田會主催にて在室蘭の各私立大學出身者關係者の聯合大會を開催すること

●坂井大輔氏歸朝歡迎會

大正二年專政出の在京者は、米國より歸朝せる坂井大輔君の歡迎會を一月二十日午後六時、神田小川町ときわに開催し、同十時過敷を盡して散會せり。來會者左の如し

畑 貞一(舊姓片瀨) 小田井紫郎
河崎 清 横關 愛造 高橋 清吾
倉住 覺藏 坂井 大輔 寒河江堅吾

●嘉穂校友會

石炭で有名な福岡縣の一角嘉穂郡に居住する校友が、一月廿二日午後五時飯塚町松月樓で親睦會を開催し

校 友 面 影

新歸朝 助教 黑川兼三郎氏

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
二ヶ年半歐米に於ける斯學の研究視察に耽つて居られた黒川助教は、(5)電氣が、曩頃無事歸朝せられた。何か御土産の配當に與るべく兎も角も御都合をと電氣科の教授室を叩いて見ると、デは是處でと至つて簡單に御承諾。...而し自分は一科の微細な問題に没頭して居たので、特にお話する程の何の持ち合せもないのですが...と、謙遜しながら語られたところを次に...
學生生活——留學の途に上つたのは大正七年の七月末で、始めにボストンに行き、マサチューセツ、インスチチュート、オブ、テクノロヂーの研究科に入つて聴講した。此處の設備は實に世界一の名を得て居る程に完備したものである。翌年から研究室での實驗に主力を注いだ。彼地の教授方法の特色ともいふべきは、根本原理を容易しく簡單にして學生の腦裏に深く打込むで行くことの點である。日本の如く六ヶ敷原理法則を生硬のまゝに暗誦せしめてサチ卒業後實際に方つて餘り役立たぬのとは趣を異にして居ると思はれた。

丁度戰爭中だったので、學校は全く軍隊の豫備教育所と化し、軍服を着けた學生を以つて充された。是等の學生は、一方には軍隊教練を受けると同時に、他方に於ては學科の教授を受けて居るので中々の騒ぎであつた。例へば校内には幾個の飛行機格納庫が出来、飛行機操縦の練習をも行ふて居た。

日本の學生はハーバードやテクノ後東部を視察すべく赤布式の旅行を試みた。七八つの大學と代表的の會社——電氣會社——を見た。或紹介によつてウエスタン會社の研究室を視たが、其の微に入り細に入つた設備組織に對しては只感嘆の外はないのであつた。其の他何事につきても世界一を以つて任して居る米國の諸施設について見ても、日本の今後の新文化的設備の上に參考とすべき



氏郎三兼川黒 朝歸新

ロヂー等を併せて六、七十名あつたらう。斯く多數なのは歐洲戰亂のため英獨佛へ散在すべき者が米國一つを目當てにしたからでもあつた。其の内に吾が早稲田は常に一割以上を占めて居た。學校關係者としては北

ことが尠くない。日本は只米國史を學べば事足るであらうと思はれた。歐洲の諸國を對照して見ても、尤も進歩して居るのは何といつても今日のところ米國の右に出づるものはないやうである。

歐洲視察——一ヶ月の米國內地旅行を終へてから、昨年七月三十一日に紐育を發し、英國倫敦に向ひ、更に轉じて歐洲大陸に渡り、佛、伊、

獨、瑞の諸國を巡つた見た。各専門に互つて調査される人々は別として普通の旅行者としての自分などには大戰後の悲慘の痕として、是れぞといふものも見當らなかつた。物資缺乏の聲もホテル生活の身には何等不自由を感じられなかつた。只獨逸に行つて見て、アルミの貨幣の使用せられて居ることや、砂糖の缺乏せることや、それと或公園の舊の博覽會場に片輪になつた戦傷の廢人が多數居るのを見て如何にも思はせられた。それから敵愾心の強烈なことで、獨逸の英、佛に對する敵愾心は實に甚しいものであつた。佛、英とても同様である。それが智識の低いもの程正しい理解のない丈に一層強烈である。伊太利の一ホテルに宿つたが、丁度其の番頭が獨人で、英佛に對して大に悲憤慷慨して居つた。吾々第三者の地位に居るものには、是程までに甚しいものと合點かしむるのであつた。

歸朝して見て——彼地へ行くと日本短所は忘れられて其の長所のみが思出され、そして現在生活の不便が痛切に感ぜられるものだ。が、日本へ歸つて見ると、遂に彼地の長所のみが胸に浮んで來て現狀に不満を感じ得ないものである。圖書館等について見ても、彼地の圖書館の閲覧者に對する紳士扱ひは實に氣持がよい。所により多少の相異はあらうが自由

に書棚から目的の書籍を引出して見ることが出来るし、所要の書籍を書いて出して置けばチャント持つて來て呉れる。歸りには其の席へ置き放してよいのである。日本の様な面倒は毫もない。今一つの感じたことはテクノロヂーのみならず相當にい圖書館には學術雜誌等は世界中のあらゆるものが而も昔からのがキチンと取揃へられてあることである。新研究を試みようとする者にとつては尤も必要なものであつて、是れが無いと、自らは新發見をした積りで誇つて居るものが、既に他人に依つて公發せられたる舊發明であるといふ様な滑稽に陥ることになるのである。新大學にしても新圖書館にしても、此バック、ナンバーを揃へることが一仕事なので、研究には缺くべからざるものである。理工科新設當時此の方面に幾何の注意を拂はれたかが自分には疑問である。

日本の道路の悪いには驚く外無い吾國の外遊者は最初に布哇に上陸して見て先づ吃驚させられる。更に米本國に行つて見ると何ともいひ様がない。全く悲觀させられる。一體東京

の一人に對する路面の面積は何程か知らないが、恐らく彼地より非常に大であるであらう。金の無いのに面積が大なのだもの改良に困難なのは當然である。

米人の時間的に活動して居る様は實に感嘆に値する。仕事をしながら煙草を煙らし茶を啜る……といふ日本流は見ること出来ぬ。執務時間を厳守して致々として活いて居る人々の歩調の早いこと、グズ／＼して居ると突／＼はされるかと思はれる程である。それが英京倫敦へ行くとグズツト緩やかに感ぜられ更に東京へ來ると全く間拔けて見える。彼地の家庭生活は又誠に簡單なもので、家屋の構造からして凡ての生活内容が、簡易の一字で掩はれて居る。従つて自動車をも所有して居る程の家でも女中一人使用して居ない。主婦が自分で一切を處理して居る。それは一切を處理し得る程に便利に設備されてあるからである。日本の家庭生活の改善については、大に彼に學ぶべき點があると思ふ……。

校 友 動 靜

●竹内松治氏の海外視察

竹内氏(二十七文學)は、文部省より英米の德育に關する調査を囑託

せられ、一月十四日出發せられたり。

●澁江敏夫氏

本大學本部會計課に勤務中なりし
澁江氏(四三、大法)は、今回都合に
よいて辭任せり。

●留學生堤秀夫氏及末高 信氏の出發

堤教授(2電氣)は一月二十六日午
前九時二十五分東京驛發、末高氏(4
商)は、一月十七日午後一時半東京驛
發、相前後して米國留學の途につか
れた。

●黒川兼三郎氏の歸朝

かねて電氣學研究の爲め米國に留
學中なりし助教授黒川兼三郎氏(5、
電氣)は、歸途歐洲を経て一月二十
一日神戸に上陸、無事歸朝せり。

●田中周衛氏の英米出張

田中氏(6、商)は、株式會社十五銀
行より、銀行事務研究の爲め滿二ヶ
年間英國及米國へ出張を命ぜられ、
二月十八日横濱解纜の春洋丸にて出
發の豫定なりと。

●大澤一郎氏より (在イ ンノイ)

…御承知の通り日米問題は段々
其の歩を進めて惡化しつつあり、吾
々米學生としても、此の際觀過し
能はざるものと存し、展會合を催し
市俄古ミシガン等と共に活動の幕に
入らんと致し居候。右は初め當大
學に於て計劃せるものにして、年末
には小生もシカゴの大會に出席の豫
定にて候。皆々様の充分なる御後援
を願ふ次第に御座候。大隈總長にも

日米問題に關して大にプロバガンダ
の必要を説かれ居り候も、何分語學
の達人は少く、又左様な人は金儲け
に多忙といふ始末、此の點につきて
は學生が最も好都合と存候。未だ確
たることは申上げられず候も、新春
迄には眼鼻のつくこと、存候。大に
プロバガンダする必要は米國の一部
の人々特に親日的の人々の切に吾々
に勤むる處に有之候……

以上大澤助教授より平沼學長宛書信
の一節にて、全米日本人學生同盟を組
織し、(イ)全在米日本人學生の一致團
結を計り、(ロ)相互の獎勵親和及補助
並に社會及科學の進歩に貢獻し、(ハ)
日本及日本人を米國に紹介して日米
平和の永久的基礎を造らんとするにあ
り。而して此目的を達成する爲に(イ)
日本及日本人並に日米問題に干する
事實調査を行ひ、(ロ)此の事實を廣く
米人に宣傳し、(ハ)宣傳の方法として
出版物を發行し、或は社會的學術的諸
種の活動を爲さんとし、冬季休暇中組
育シカゴ、夢嶺の三所に準備會を開く
手筈なりと。

●峯好次郎氏より

…小生大正八年二月渡米、約一
年半を西海岸に暮らし、九月より常
地に參り、イリノイヌス大學大學院
學生として再學生生活を營み居り候
目下當大學には母校理工科助教授大
澤一郎氏ウィラード教授の下に建築
機械設備を研究され居り候。其の他
母校電氣科教授上田氏も其の中當地

へ參らるゝとか聞き及び申候。尙又
松ノ井覺治君(7建築)も、次のセメ
スターよりは當地へ来る筈にて、大
に賑はしく相成ること、喜び居り候
一週間前母校野球團が愈々當大學と
仕合を爲す旨當大學新聞に相見え申
候。期日は明年五月二十一日と決定
せる由、當地在留日本人學生一同は
今日より其の歡迎方法に就て考究中
に有之候。天涯異郷に母校野球團來
の報を耳にしては只々歡喜の外な
く、鶴首其の日を待ち居る次第に御
座候……十二月十八日發 峯氏(7、
建築)より通信ありたり。

職業移動

專 政

- 高橋浦助(四四)岡山縣淺口郡河内
村倉敷大橋銀行河内支店長となる
 - 兵庫金次郎(4)株式會社十五銀行
京都支店に轉勤(京都市下長者町
油小路西)
 - 入江岩次(6)岡山縣都窪郡萬壽村
倉敷紡績株式會社萬壽工場に勤務
伴統一郎(8)東京貯藏銀行勤務
 - 木村孫作(8)官吏となる(朝鮮江
原道蔚珍郡竹邊警察官駐在所)
 - 大久保喜文(9)ボリナ貿易株式會
社勤務(神戸市北野町二ノ一吉根
山)
- 大 政 —
- 佐藤魁二(三六英政、三八大政)楠
木商店(鐵鋼材料及機械製作販賣

業)支配人となる。

●坂東幸太郎(三七專政、四四大政)
旭川興信所長、旭川經濟評論社長、
旭川區會議員となる。

●京田武男(四四)東京日々新聞記者
となる。

●大戸恩勝(四五)北京東城五在胡同
京津日々新聞編輯局長となる(京
津日々新聞社々宅)

●橋本廣人(2英語、4大政)湯淺貿
易株式會社を辭し、同業、合資
會社「小カネコ組」に入る。(神戸市
熊内橋通一の五番地二三番屋敷)

●木本隆章(6)貝島礦業所滿之浦鐵
業事務員となる。

●小田切孝(7)東洋園藝會社に就職
(牛込區辨天町一四柳原方)

●寺澤辰二(9)日本橋區元濱町六東
京古河銀行元濱町支店に勤務

專 法

●辻本作太郎(三八)司法官試補とな
る

●近藤親(四四)辯護士を開業す(小
石川區大塚坂下町一九三)

●高橋美三雄(3)佐賀高等學校會計
主任となる

●廣井泉(6)司法官試補となり大阪
地方裁判所檢事局並大阪區裁判所
及同檢事局に於て事務修習

●小崎正太郎(8)中央大學高等研究
科在學(下谷區池之端七軒町四七
小川西吉方)

邦 行

●丸山幹治(三四)讀賣新聞記者とな
る

大 法

●赤須文吾(7英法)東京鐵道局庶務
課勤務(淺草區千束町二の四一四)
●北村正夫(9獨法)東京貯藏銀行勤
務

文 科

●毛利元巖(二六專英二九文學)縣立
和歌山中學校に轉任(和歌山市新
堀北ノ丁一ノ一四)

●丸山英觀(四一大英)橫須賀市公郷
堀之内泉福寺住職となる

●松井清作(四一大英)大阪府立市岡
中學校教諭となる

●鶴川富男(四二大哲)大阪市兒童相
談所、教育相談主任兼同學院主任、
(大阪市東區德井町一ノ三三邸)

●町田喜一郎(四四大英)茨城縣立太
田中學校に轉任

●須崎國武(7大英)南滿鐵道株式會
社奉天列車區勤務(奉天紅梅町七
ノ二)

●瀧藤準教(9大哲)天臺宗地藏院住
職兼布教師(大阪市南區天王寺勝
山通一丁目地藏院)

商 科

●川平龜之助(四〇)株式會社藤本ビ
ルブローカー銀行門司支店支配人
代理となる(下關市岡崎旅館方)

●黒坂五也(四〇)樺太落合日本化學
紙料會社に勤務

●飯田茂(四二)智利公使館通譯(下

谷區仲御徒町三ノ七一

綿田久吾(四二)京橋區本木町三ノ一四東洋硫磺株式會社勤務

白名徹夫(四三)松江市大阪毎日新聞山陰通信部勤務

大宮光男(六)橫濱護謨製造株式會社橫濱販賣店勤務(同市同野町一八)

田中淳一(六)支那上海廣東路九號三菱商事株式會社支店勤務

櫻井善兵衛(六)淺野晝夜銀行淺草支店勤務(本郷區駒込千駄木町二六三)

今井茂勝(七)長野縣飯山中學校教諭となる

池田益雄(七)長崎製紙株式會社勤務(長崎港外深堀村本町深町方)

谷口豐次郎(七)中島礦業所を辭す(福岡市養町)

中之庄谷三次郎(七)古河電氣工業株式會社購買課勤務(府下高田町雜司ヶ谷一五)

内野保男(八)下谷區仲御徒町三ノ二九東洋輪業株式會社出張所勤務

住永惇二(八)朝鮮京城第一銀行支店勤務(京城臥龍洞一三九)

中治重郎右衛門(九)東京貯藏銀行勤務

中村平一郎(九)橫濱船渠株式會社勤務(橫濱市福島町二福壽館)

杉本八十一(九)中電氣株式會社勤務(麻布區飯倉五ノ三七)

理工科

石野定見(九電氣)桂川電力株式會社鹿留發電所勤務(山梨縣南郡留部東桂村同所内)

稻富秋吉(三建築)門司鐵道局工務課勤務

南慶治郎(六電氣)關西水力電氣株式會社に勤務(奈良縣生駒郡郡山町柳三丁目上田豐松方)

西野利雄(七建築)九州工業株式會社熊本支店勤務(熊本市坪井廣丁一八六)

石井忠治(七探治)關東鐵道株式會社礦業部勤務(府下瀧ノ川町西ヶ原八五二)

梅崎覺一(七探治)滿洲木溪湖鐵礦公司辭職、歐米に留學する事となる(長崎縣北高來郡湯江村)

高師

平井澤雄(三九法制)佐賀縣立小城中學校教諭となる

美佐捨治(四一國漢)樺太廳立高等女學校書記兼教諭となる(樺太豐原明豐寮内)

中島武夫(二歷史)秋田縣本庄町本庄中學校教諭となる

岡田芳松(四英語)山形縣酒田町酒田商業學校教諭となる

樺島信福(五英語)臺南州會文郡麻豆明治製糖株式會社勤務(同社々宅)

梅山一郎(五英語)萬朝報社會部記者となる(牛込區市ヶ谷船河原町一二川合方)

五月女傳一(七英語)秋田中學校を辭し郷里に歸る(埼玉縣北埼玉郡井泉村)

推薦

澤田山太郎(四五)朝鮮銀行東京調查部勤務(府下西巢鴨七二三)

轉居

岸畑久吉(講師)府下下戸塚四三六

橫前正輔(三九)府下北豐島郡長崎村北荒井四八九

大畑定一(四四)府下千駄ヶ谷町八五八

中島太郎(三)102 N. 123rd St. New York City, U. S. A. (Columbia University 在學)

永井助藏(五)愛知縣半田町本町通齊藤千代藏方

花田準一(八)Mr. K. Maruyama, 223 Central Park West, New York City, U. S. A.

西川嘉三(九)大阪府西區北堀江通四ノ八

久保平三郎(六)市外下戸塚六二

宮崎正英(九)石川縣鳳至郡南北村字岩車

守田貞記(九)牛込區揚場町一二蜂屋方(本大學研究科在學)

石丸正誠(三五)靜岡縣沼津町西條

英政

劉崇傑(三七政三九大政)中華民國上海北豐路二〇朱廣轉交

河原林櫻一郎(二九英政三八大政)京都市聖護院西ノ町六

遠藤盛彌(五)神戸市中山手通七ノ八八

渡邊達(八)牛込區上宮北町二田中方

田代名兵衛(八)本郷區駒込坂下町二五〇

深津賢太(八)府下代々木南山谷三一〇

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

邦法

小南惟精(二七邦行二九邦法)相州鎌倉圓覺寺内

專法

山本諭次郎(八)下谷區池之端七軒町東瀨寺内

久松陟(八)市外西巢鴨町宮仲二二六八鶴田方

谷澤福助(九)兵庫縣武庫郡住吉村馬場東九九二ノ二

則武久義(九)大阪府東成郡黑江村字島二八

大法

鈴木雄治(三九大法)橫濱市不老町二ノ七〇

山中仁太郎(四英法)上海倍爾爾路二二

二瓶治夫(八英法)大連市外沙河河口六丁目北六滿鐵沙河河口工場庶務課

村川越

●大政正雄(3) 神戸市下山手通一ノ七

●加藤重名(4) 大阪市西區三條通り一ノ五

●八住俊一(5) 芝區田村町六

●田中周衛(6) c/o The Yokohama Space Bank, Ltd, 120 Broadway, New York City, N. Y. U. S. A.

●中村芳次郎(6) 大阪市北區老松町三十五銀行支店內

●星野英夫(7) 本郷區臺町二八北辰館内

●橋義一(7) 市外青山原宿一七〇ノ一七

●出羽正也(7) 横濱市辨天通四ノ七

●四藤本ビルブローカー 銀行支店方

●宮永龜年(7) 朝鮮全北金堤東洋拓殖會社々宅

●柴田勝(7) 麻布區飯倉片町三二岩城東一方

●西村晴雄(8) 小石川區久堅町四八

●小野昇(8) 横濱市本牧町天德寺七四一

●財津元(8) 神戸市日本郵船會社支店氣付山東丸乗組

●海瀨高次郎(9) 府下下戸塚五二五法榮館

●金井道夫(9) 麻布步兵第三聯隊機關銃隊ノ二

●金子政治呂(9) 本郷區看町一三東洋館

●山崎一重(9) 大連市乃木町満鐵商

事部購買課

●山本雅太郎(9) 牛込區早田鶴巻町三〇五清林館

●山本一市(9) 大連市薩摩町南山寮九三

●古瀧原(9) 千葉縣市原郡平三村米原

●新井歡市(9) 府下戸塚町源兵衛一六八

理工科

●竹内喜重郎(2 電氣) 京都市上京區長者町通室町西入鷹司町

●長谷川恭康(3 電氣) 福井縣大野郡大野町清水

●澤守源重郎(4 機械) 86 Avenue de la Muette, Paris, France.

●黒川兼三郎(5 電氣) 麹町區飯田町二ノ五一

●北澤義男(5 電氣) 本郷區駒込林町一六八工藤方

●三浦榮次郎(5 探治) 大阪市東區北五丁目住友總本店

●高橋慶之助(6 電氣) 府下巢鴨町一四七〇中村千代松方

●吉田孝信(6 探治) 青森縣下北野川内町西又嶺山

●中井保(7 電氣) 府下入新井村不入斗八九七松風館

●村山茂(7 電氣) 茨城縣助川驛萬城内役宅八ノ一

●加藤榮三(8 機械) 大阪市東區道修町三丁目日井方

●澤藤二郎(8 電氣) 府下高田町鎌司

ヶ谷西原六九六 (鐵道省矢口發電所)

高師

●渡邊藤吉(四一國漢) 203, West 3 5th Street, Los Angeles, Cal., U. S. A.

●大木榮治郎(四二歷史) 東京府立第四高等女學校

●荒井惟俊(2 數學) 芝區白金今里町明治學院内

●牧野繁好(4 國漢) 大阪府下天王寺村阿倍野東浦四三五

●伊東孝一郎(8 國漢) 廳立小樽中學校に較任

●横川啓三(8 國漢) 水戸歩兵第二聯隊第六中隊

●常井省(8 國漢) 栃木縣立眞岡中學校に轉任

●松本時化雄(8 國漢) 福島縣遠賀郡島門村廣渡二二五三

●傳田稅(8 國漢) 愛知縣知多郡半田高等女學校に轉任

●坂本一男(8 國漢) 鹿兒島縣立川邊中學校に轉任

改姓名

●行武善胤(2 大政) 立花と改姓

●内山重一郎(四三大法) 羽田と改姓

●岩田定光(5 大英) 櫻井と改姓埼玉縣より千葉縣東葛飾郡二川村柏寺に轉籍和歌山縣田邊中學校

●川越養助(7 機械) 小西と改姓秋田縣平鹿郡沼館町今宿

明治三十五年邦語政治科得業

大正七年十一月二十五日死亡

篠原藏三郎氏

明治四十三年大學部英文科得業

大正九年八月十五日死亡

戸松 慶成氏

大正六年大學部商科得業

大正九年九月二十三日死亡

渡邊 善吉氏

明治四十五年大學部商科得業

大正九年十一月九日死亡

山口隆三郎氏

明治二十九年邦語政治科得業

大正九年十一月二十一日死亡

村上 松藏氏

明治四十三年大學部商科得業

大正九年十二月十四日死亡

橋本鋁太郎氏

明治四十五年大學部商科得業

大正九年十二月二十四日死亡

學會會合

明治四十一年大學部英文科得業

大正九年十二月死亡

石井 壽氏

明治四十年大學部政治經濟科得業

大正十年一月三日死亡

雪竹 麒六氏

大正六年專門部政治經濟科得業

大正十年一月八日死亡

大野 頑氏

大正六年大學部理工學科探礦冶金學科得業

大正十年一月八日死亡

西岡 哲夫氏

大正三年專門部政治經濟科得業

大正十年一月十一日死亡

田中 信彦氏

大正四年高等師範部國語漢文科得業

大正九年十二月十四日死亡

鶴田 雄夫氏

右諸氏の訃報に接し哀悼の至りに堪へず茲に謹みて弔意を表す

大正十年二月 早稻田大學校友會

トルストイ十年祭

昨年の十一月二十七日、我が文學部露西亞文學科主催のもとに、トルストイの十年祭が講堂に於いて舉行された。

顧みれば、ロシアの片田舎アスタアボオの一小驛に、靈界の偉人ニコライウイツチ・トルストイが、その矛盾葛藤の烈しい八十有餘の長き一生を終つたのは、西曆一九一〇年の露

念講演會を催したのであつた。

一、開會の辭……………

露西亞文學 片上 仲氏
専攻科教授

一、ロシア人としてのトルストイ
同 片上 仲氏

一、フランス人の觀たるトルストイ
同 片上 仲氏

佛蘭西文學 吉江 喬松氏
専攻科教授

一、トルストイとロシア革命
ワノフスキイ氏

一、トルストイと現代
文學部長 金子 馬治氏

定刻に至ると早や多くの聴衆はわ
が大講堂へと詰めかけた。何れも皆

トルストイに關しての新思想文學の
實のある講演を聴かんとする若き人

人であつて、中にも十數名の若き婦
人が男子の間に交つてゐたのは、ま

た他の講演會に見られないところであつた。

やがて、片上教授は演壇に上り、
一通り先づトルストイの十年祭を行

はんとする主意を述べ、次いで、ト
ルストイは現代の巨人であつたとい

ふことを冒頭に、彼の藝術が現實的
象徵主義の精神にあることを諄々と

して説かれること約一時間半、「そこ
に彼にとつてのみ完成された美しい

世界があるので、彼の藝術はあらゆる
ものが綜合的に統一的に進み出づ

る永久の生命を絶えず人類の魂に

注ぎ行くことであらう。」と結論して
降壇されるや、急激の如き拍手は講

堂を揺がしたのであつた。次に登壇
された吉江教授は、その魅力ある瞳

をかがやかしながら、フランスの文
學者中でトルストイに關する研究者

中の權威たるボオゲエとロマン・ロ
オランの見た彼に就いて頗る有益な

講演を試み、「彼の文藝創作時代の親
友たるツルゲエフは彼を飽までも

一個の藝術家として見やうとしたが
大方の佛蘭西人も亦このツルゲエフと

同じ見方をしてゐるのである」と結
論して降壇されると、拍手がまた

あつたが、その暗闇に約一時間も立
ちつて貰つたのである。

午後六時半、活動寫眞會は片上教
授の簡單な挨拶で開かれた。最初に

先づ早稲田音樂會々員のオーケスト
ラがあつた。其メンドルズグーンの

「アタリ行進曲」と次いでグノーの
「聖父」の一曲とは、どこかアマチュ

アの音樂會だといふタドタドしさは
あつたが、それでも兎に角會員諸氏

の熱心な努力で、講堂の聴衆の耳を
傾けしむるに充分であつた。總て音

樂が終ると、ツルゲエフの原作だと
言はれるバテール社ロシヤ支社の撮影

にかゝる「陷罪」の寫眞がばつと映寫
された。映寫の間は音樂も説明もな

いので最初は機械の音が耳に着いた
がそれも慣れると、却つて面倒臭い

説明や音樂がないのが氣持がよかつ
たその寫眞が終ると、幹事宇賀三十

三氏の簡單な紹介で、同じくバテール
社の特別提供なる「窓の影」と題する

革命悲劇を取扱つた。内容も可なり
複雑にして面白ければ、寫眞も極めて

鮮明なものが映寫された。それは觀
客を充分に満足せしめたやうであつ

た。

ロシヤ民謡の「赤いサラフハン」と
「揺り籠」とのマンドリンが終ると、

幹事梅田寛氏の簡單な挨拶で、愈々
モスクワのハンジョンコフ會社の撮

影にかゝるトルストイの原作「復活」
全六巻が映された。雪深きロシヤの

風景や粗朴なロシヤの家庭の様が徐
徐と私共の前に現はれた。カチュー

シャに扮した女優は純ロシヤ型の女
だといふ片上教授の批評だつた。寫

眞がすこし古くて不鮮明な箇處の
あつたのは遺憾だつたが、どこか

に原作の味ひも出してゐたやうであ
る。

斯くて十一時すぎに、「復活」も終
つて、この意味深きトルストイ十年

記念祭も同時に閉ぢられたのである
最後に臨み、自分はこの靈界の巨

人を追慕する情から努力を惜まなかつた其の努力を相互にねぎらふ爲に此度の幹事諸氏の姓名を記して置かう。

片上 教授 馬場 講師
岡平 雅英 福永 三郎
古賀 榮一 増田 隆彦
小林 信司 小泉 修一
宇賀三十三 的場 正文
田村玄佐男 小山 敏
神谷 信 三宅 賢
長谷川哲平 平井 肇
森本 覺丹 梅田 寛
杉本 喬 小島 徳彌

(附記) 本年はトルストイと共に
世界の精神界に一大貢獻をなしたフ
ョードル・ミハイロウイツチ・ドスト
イエフスキの死後二十年目に相當
するので、私共はまたこの文豪を追
慕する情より一大記念祭を行ふ計
畫である。(徳彌生記)

曆にて十一月七日であつた。それか
らもう十年の星霜が過ぎ去つた。さ
れど、この靈界の巨人が遺した偉大
なる文學上思想上の著書は、彼の死
と共に益々その眞價が發揮され、今
では殆ど全世界に互つて「如何に生
くべきか」といふとに就いて苦しみ
る人々の精神の糧になつてゐる。わ
が國に於いても、遠くは宗教上に就
いて、近くは文學上に於いて、また
極く最近に至つては思想上に於いて
渺なからざる影響を受けてゐるやう
である。まことに、彼は宗教にあり
ては、「宗教論」その他に於いて原始
基督教を信奉し、文學にありては、
「アンナ・カレニナ」その他に於いて
現實生活に對する驚くべき批判を行
ひ、思想にありては、「吾等は何をな
すべき乎」その他に於いて大膽なる
無抵抗主義を標榜したのであつた。
また極く昨年にありては兒童に與へ
る讀物としての多くの物語を書いて
文藝教育方面に盡した功績も決して
渺くなかつた。あらゆる方面から見
て、世界の文學思想界に最も意義あ
る仕事をした此のロシヤ人を追慕し
て、その十年祭を催したのは、私等
ロシヤ文學を専攻する學徒にとつて
また意味深きことだと思はれたので
ある。

私共は先づ記念祭のカタログを
第一部第二部と分け、第一部は二十
七日の正一時より大講堂に於いて記

學生會

●別機級會消息(第三報)

△足尾嶺山、機械工場、日光方面見學
大正九年十一月五日(日曜)開、鈴
木先生引率の下に見學にゆく。先輩
諸兄の御案内で益する所が多かつた
参加者は左の二十名であつた。

鈴木徳藏先生竹中二郎先生山本 倍夫
金子 數衛 木村 綠 渡谷 勇
田中正之助 間庭 秀治 岡崎 堅一
小松原喜次 味香 啓治 藤本 憲吉
佐々木勝次 福田 耕 田中 基
松下 四郎 老沼 敏三 石森 米吉
箕田 一郎 安田晴雄
(以上順序不同)

△第三回例會

大正十年一月三十日(日曜)開催。
來會者は左記五十六名であつた。

山本 倍夫 松本 浩二 佐々木武夫
岡崎 堅一 田中正之助 森岡 貞篤
湯淺 浩 久野 政一 福田 耕
丹羽 成徳 木村 綠 池田 碩三
岡島 正倫 老沼 敏三 岡部 憲爾
朝倉 三郎 木暮 文雄 森 喜誠
青島 雄雄 中井 一鶴 渡谷 勇
三宅文武郎 箕田 一郎 間廣 秀治
阪本 安房 山本彌三郎 山形 喬
刈谷 忠篤 山口 正雄 佐々木勝治
西岡 義也 瀧口 泰 角田 義雄
松原 泉 奥村市太郎 平野 五郎
志村 三郎 金子 數衛 八幡 俊雄
味香 啓治 島川 義平 鷺尾英一郎
加藤三郎 松下 四郎 幸野誠之助
和田 成三 豐田堅三郎 大宅 義雄
安田 晴雄 藤本 憲吉 小松原喜次
三村 登 小川 二郎 板倉 関吉

原 信雄 澤本 孟彦(順序不同)

郊外玉川の廣庭で午前は暖かい陽を
あびて野球試合に熱中し、室内はお
正月の再來かとかるた戦に賑はつて
ゐる。午後はかねて腕によりをかけ
て秘密裏に練習をした餘興の蓋があ
る。

喜劇 千手觀音
舊劇 鈴ヶ森
合奏 ラ、サンカンテン デーッ
長 松の緑
獨唱 コルネビールの鐘
端 數種
尺九 かまくら
新能樂 浮世
福引

かなり皮肉なよく個性にあつた福引
もあつたが、「當日の大福者は「胸き
きのエンヂニア・チャキチャキとす
すむ」で時計を得られた三宅君であ
る。

平日機械の講義や製圖でいぢめられ
てゐる者には、かうした一日の全く
學校からはなれた集ひは面白いもの
である。三味、太鼓、鐘入のおほ騒
ぎに終日遊びまはり、落陽に赤く富
士の英姿を眺めつ、歸途についた。
(阪本安房日)

●廣告研究會

本會が開設せられてより丁度第十
年目の春を迎へたのである。十歳に
なれば親の手に引かれなくても自ら
歩くのだが、我が研究會は十年の歴

史を有しながら未だ十分なる成績を
舉げ得ないのは甚だ遺憾の至りであ
る。而し一時殆ど滅亡に迄衰微した
ものを今日あるに至らしめたのは實
に昨年中の努力の結果である。本年
は昨年に増して研究に努力し、本會
の隆盛を計る考へである。その第一
歩として去る一月十五日會員の總會
を開き、新幹事の選舉を兼て本年度
希望事業計畫を相談した。

一、會報の發行。二、演說會。三、展
覽會開會。四、講師一人増加。

以上の事は會員一同の切なる希望で
あるから、學校で許される限り此が
遂行に努力する心算である。尙又研
究上にも大改革を爲し、本會内に左
の専攻科目を設け、各科に主任を置
き、互に競争的に研究を勵み、一學
期に少くとも一度は研究事項を發表
しあふこと、した。

一、圖案部 主任 江頭 野本
二、文案部 同 渡邊 山田
三、ボスター部 同 三木 吉本
四、新聞雜誌部 同 菊水 石腸
五、プログラム 同 水谷 福田
六、歴史部 同 岩橋 豐田

又從來の上野先生廣告心理學は一先
づ昨冬を以て終り、今年よりは先生
指導の上に實際統計を取つて研究す
る事となつた。井關先生、松宮先生
には従前通り講義を願つてを。又
本會の毎週行ふ見學は益勵行する。
新幹事は石腸君・豐田君・野本君・三

●越佐會秋季大會併に高井忠夫君送別會

大正九年十一月二十六日 飯田河岸
富士見樓で、越佐會秋季大會並に高
井忠夫君の送別會を開催した。高井
忠夫君は今回母校から米國留學を命
ぜられて十二月初旬出發するので、
此の榮譽ある君の行を壯にすべく
この和氣霽々たる校友學生大會を開
催したのである。丁度先輩諸兄にも
お差支への方が多かつたし、學生も
學期試験近くの事だつたので、出席
者は貳拾九名だつた。市島會長の開
會の辭、坪谷善四郎氏の講話、清水副
會長の高井氏への贈辭、高井忠夫君
の答辭、學生齋藤卯太郎君の挨拶等
があつて、極めて有益な意義ある。
そして楽しい早稻田式の會合であつ
た。尙當日の會の爲めに、市島謙
吉氏、内藤久寛氏、昆田文次郎氏、
増田義一氏、坪谷善四郎氏、飯田良
平氏等の諸先輩から、多大の御援助
に預つた事を附記して感謝の意を表
する。(幹事清水善雄報)

●早稻田學生會新年會
一月二十六日午後二時から、早稻

田鶴巻町の上田書店で開催致しまし
た。此の日は大寒の季節にもかかは
らず、空は晴れて試に近來稀な温か
さで、神も我が會を祝福されるのか
と思はれました。會長徳永博士には
近々歐洲視察の途に就かせられます
ので其の準備に御多忙の爲め、又本
會教師本間氏には御都合で御出席下
さいませんでした。淺井、高田、
小林、青山の諸先生には御多忙にも
か、はらず御出席下さいまして、こ
の催しを一層賑かに御援助下さいま
した事は、我々一同の光榮とし深く
感謝する次第で御座います。本會は
昨年十月に生まれて、稽古を初め
ましてから未だ半年にもなりません
のに、會員諸君の熱心な研究と、本
間先生の懇々御教導の結果、思ひの
外上々の諸會が出来ましたことは欣
喜に堪へません。會員が抽籤に依り
まして各役を受け持ち左の番組を諮
りました。

鶴龜。上卿。橋辨慶。紅葉狩。小
袖會我。
尚ほ番外として先生達が「大原御幸」
を諮られ、終りに千秋樂を詠ひ九時
半出席散會しました(刀根記)

雜

錄

●高等學院第二期建築工

昨年以來工事を急ぎつ、ありし高

●野球部の米國行

等學院第二期建築工事は、既に八九
分通進捗せり。

本大學野球部は、シカゴ大學の招に應じ、三月中旬安部部長引率の下に渡米の途に登る豫定なり。

●基金管理委員村井吉兵衛氏の大手術

本大學基金管理委員村井氏は、昨年来肺炎より脱疽を併發し、遂に一月四日佐藤三吉博士により患部たる脚部切斷の大手術を行ひたるが、手術後の経過極めて良好なる由。

●小室教授の出發

教授小室靜夫氏は、十二月三十日東京發、米國留學の途につかれたり。

●德永博士、堤教授及末高信氏の留學送別會

一月十三日午後六時より永樂俱樂部に於て、近く歐米留學の途に上らる、教授德永博士、堤教授(2電)及末高信氏(4商)の送別會を開く。デザート、コースに入り、平沼學長立ち一場の挨拶を爲す。

德永君は理學界の耆宿、此度海外に遊びて更に其の蘊奥を究め尙専門外の教育上の取調を爲さんとす。斯界の爲めに喜ぶべし。暫時君の美音に接するを得ず、能無寂寥の憾なきにあらずるも、歸朝の上は盛に學海に貢獻せらるべきことを期待す。堤君は電氣學の蘊奥を究めんとす。君に就きては中學時代より余の知悉する所、其の人物學識は將來必ず學界を飾るに至るべし。末高君は主として保險事業を研究し尙經濟商業の方面をも調査せんとす。是又前二君と共に歸朝後吾學海に賑はす

ことなるべし。今や長幼相携へて遠く海外に遊び、他日歸來相並びて學海に馳驅するに至るべきを想見して欣喜に堪へず。茲に聯組酒肴を列ねて三君の健康を祝する所以なり。尙今河三氏の遊學に關し、末高君に對しては校友杉田駿氏より、堤君に對しては同増田義一氏より、德永君に對しては同松平伯より、各多大の貴賓を本大學に寄せられたり。こゝに厚く感謝の意を表す……。

之れに對し德永博士先づ立ちて、今日の鄭重なる響應を謝し、

三人各目的を異にし、而も二君は一定の大學に停まりて研究するに反し、余は各地を飛び廻り、且つ其の期間も短く、最も早く失敗談を諸君に報告するの光榮を有することとなるべし。此短時日を最も有効に費して、本大學の爲めに酬いる所あらんとす……。

次に堤教授は、

自分は米國に一ヶ年を費し、後の一ヶ年を以て英・佛・伊・瑞等の諸國に於ける電氣事業の觀察に須ひんとす。學校よりの期待は余としては餘りに重荷に過ぐるものあるも、歸朝後一層の努力を以て之れに對するところあるべし。今日は只序文を語るのみ、本論は歸朝の日に譲る……。

最後に末高氏も亦立ちて、

大正四年母校を出てより五ヶ年間實業界に身を投じたりしが、今回圖らずも學海に籍を移すこととなれり。但二ヶ年の修養が人の期待大なるなるに反して齎らす所の成果の小なるべきを恐る。尙席上田中博士より今回理工學部機

械工學科學科主任として迎へたる元明治專門學校教授沖巖博士の紹介あり。七時席を移して懇談、八時散會せり。當日の出席者は左の如し。

(來賓)德永 重康 堤 秀夫 末高 信 増田 義一

(來會者)伊地知純正 土屋 啓造 佐藤 功一 平沼 淑郎

野村 松三 神尾 錠吉 日高 具一 氏家 謙吉

磯崎 敏雄 前田 多藏 遊佐 慶夫 望月嘉三郎

小林 久平 小林 堅三 山本 忠興 大橋 誠一

沖 巖 土屋 詮教 中村 芳雄 片山 利久

石井 政吉 昆田文次郎 田中 穗積 市島 謙吉

松島健四郎 杉田金之助 種村 宗八 鹽澤 昌員

中島半次郎 吉原 重威 武井友次郎

●服部教授の出張講演

教授服部文四郎氏は、東京外國語學校より臨時講師を囑託せられ、一月十六日、同二十日の兩日に互り、同校に於て「滿洲の交通並に金融」に干して講演せり。

●講師桑木博士及杉森教授の地方講演

桑木博士及杉森教授は、千葉縣佐原に於ける千葉縣師範學校同窓會香取支部會の主催冬期講習會に臨み桑木博士は「現今の哲學問題」と題して十二月廿六日より五日間、又杉森教

授は「現今の諸問題——思想上及社會上とその批判」に就きて同三日間講演せり。聴衆は同地教育者、青年及有志四百餘名、頗盛なりき。

●田井善道氏送別會

元工手學校主事田井善道氏先頃都合により辭任せられたるを以て、去る十二月二十五日、永樂俱樂部に於て平沼學長を始め各課主任相會し、同氏の送別會を開催せり。

●師岡助教授嚴父逝去

助教授師岡秀磨氏嚴父には、一月五日腦溢血症にて逝去せらる。同七日麹町區上六番町の邸に於て告別式を執行せり。

早稻田大學水泳部宿舍新築資金募集

●水泳部宿舍新築資金募集趣旨

我早稻田大學水泳部は明治三十八年に創設せられ初め逗子海岸に於て練習をなし後四十年三浦郡下浦に移り四十三年今の地即千葉縣北條海岸の所謂鏡ヶ浦に定めたり。創設當時は部員の數僅に二三十名に充たざりしが我大學の擴張と共に漸次其數を加へ今や毎年二百名を超ゆるに至れり而して其宿舍の設なきが爲めに幾かに民屋を借りて之に收容するを以て其狹隘と不便とは歳を遡うて甚しく今や到底奈何ともする能はざるに至れり於是部員等は部長並に先輩校友と相謀り北條町役場に請ひ同地

●田中小太郎氏令夫人の逝去

本會幹事田中小太郎氏令夫人には舊臘末日逝去せられ。一月八日淺草區橋場町總泉寺に於て葬儀を執行す

●法學博士大場茂馬逝去

本大學舊講師大場博士には、十二月三十日逝去せらる。

●小使鮎川庄太氏死去

小使鮎川庄太氏は明治三十四年以來、本大學寄宿舎の小使として忠實に勤務し、寄宿舎廢止後引續き本部に勤務して今日に至りしが、去る一月二十八日午後十二時半、突然腦溢血症にて死去せり。

望に堪へず

大正九年十二月

發企人

部長

中村 進 午
横澤 正 督
横澤 榮 之
山本 義 之
前田 多 藏
小坂 勝 藏
三輪 吉 太郎
杉本 光 治

規定

一、御寄附金は金拾圓を一口と定

水泳部宿舍新築資金寄附者芳名

金貳百圓也 東京 山本 義之殿
金貳百圓也 同 杉本 光治殿
金參拾圓也 同 横澤 正督殿
金參拾圓也 同 三輪 吉太郎殿
金五拾圓也 同 小坂 勝藏殿
金五拾圓也 同 横澤 榮殿
金五拾圓也 同 比留間 伊太郎殿
金貳拾圓也 同 浦本 恂二郎殿
金參拾圓也 同 松宮 三郎殿
金貳拾圓也 同 深澤 政介殿
金拾圓也 同 小倉 次郎殿
金參拾圓也 同 澁谷 三殿
金貳拾圓也 同 柿原 俊男殿
金貳拾圓也 同 柿原 幾男殿
金壹百圓也 同 坂倉 吉兵衛殿

め御一名にて一口以上幾口にても御寄附願上申候
二、御寄附金は毎月御拂込被下候とも又一回、數回に御拂込被下候とも御隨意に願上申候
三、御寄附金は早稻田大學會計課へ御拂込願上申候
四、集金法は集金郵便に依り申度候
五、宿舍は來年度夏期迄に着手竣成致度心組に御座候
六、御芳名は早稻田學報に掲げ尙ほ永く録して早稻田大學に保存願上可申候 以上

金拾圓也 同 神永 正雄殿
金拾圓也 同 伊藤 重壽殿
金拾圓也 同 馬場 重三郎殿
金拾圓也 同 清水 吉之助殿
金拾圓也 同 小倉 一男殿
金拾圓也 同 藤枝 憲吾殿
金拾圓也 同 片岡 芳男殿
金拾圓也 同 相馬 安雄殿
金拾圓也 同 一毛 正捷殿
金貳拾圓也 同 杉山 謙治殿
金拾圓也 同 結城 源心殿
金拾圓也 同 伊藤 文三殿
金拾圓也 同 小坂 清殿
金拾圓也 同 早乙女 英一殿
金拾圓也 同 木村 雄治殿

金拾圓也 同 坂倉 英吉殿
金拾圓也 同 神奈川 植草 駿一殿
金拾圓也 同 東京 野間 慎一殿
金拾圓也 同 渡部 良吉殿
金拾圓也 同 鳴下 義次殿
金拾圓也 同 上野 民治殿
金拾圓也 同 生田 喜代次殿
金拾圓也 同 麻生 武治殿
金拾圓也 同 池田 昇殿
金拾圓也 同 武林 六雄殿
金拾圓也 同 網野 育三殿
金拾圓也 同 山崎 孝藏殿
金拾圓也 同 淺岡 信夫殿
金拾圓也 同 眞船 進殿
金拾圓也 同 小川 秋彦殿
金拾圓也 同 相浦 英六殿
金拾圓也 同 但馬 惟教殿
金拾圓也 同 二宮 宗太郎殿
金拾圓也 同 東京 平野 一人殿
金拾圓也 同 安岡 虎喜殿
金拾圓也 同 鳥飼 正利殿
金拾圓也 同 岡崎 繁介殿
金拾圓也 同 中瀬 直雄殿
金拾圓也 同 久慈 次郎殿
金拾圓也 同 小森 正親殿
金拾圓也 同 岡本 逸重殿
金拾圓也 同 三木 德三殿
金拾圓也 同 中尾 保殿
金拾圓也 同 石黒 敬七殿
金拾圓也 同 蹴球 部殿

一金貳圓宛
加藤 歡作 片山 善行 勝山 達夫
勝本 竜三郎 金尾 慎太郎 横山 朝雄
田中 道夫 竹之内 文雄 丹野 勇
土屋 操 中川 清哉 中村 健一
村野 藤吉 野村 洋三 倉田 津五郎

大正九年度本會維持費齎出者芳名報告

庭球 部殿 金拾圓也 同 增井 整二郎殿
三上 嘉一殿 金拾圓也 同 今尾 隆平殿
安藤 清殿 金拾圓也 同 刈込 豐殿
岩田 繁三殿 金拾圓也 同 馬場 寛次郎殿
松岡 操殿 金拾圓也 同 田中 正治殿
池内 眞治殿 金拾圓也 同 金成 良雄殿
市原 眞三郎殿 金拾圓也 同 高木 武雄殿
西村 惣一郎殿 金拾圓也 同 高橋 芳平殿
川澄 一郎殿 金拾圓也 同 石塚 一雄殿
東京瓦斯工業 計器營業部殿 金拾圓也 同 青木 靜雄殿
同 紡織機營業部殿 金拾圓也 同 江橋 力殿
同 大久保 寛殿 金拾圓也 同 鶴沼 一郎殿
同 近藤 勝彦殿 金拾圓也 同 鷹崎 正見殿
同 村井 五郎殿 金拾圓也 同 増田 進一殿
同 澁井 福三郎殿 金拾圓也 同 今井 歸一殿
同 推名 延殿 金拾圓也 同 馬場 讓殿
同 西川 歸一殿 金拾圓也 同 成田 毅雄殿
同 森 勝太郎殿 金拾圓也 同 飯沼 知茂殿
同 島田 祐一殿 金拾圓也 同 永橋 剛一郎殿
同 古川 八郎殿 金拾圓也 同 陸田 秀雄殿
同 竹田 虎雄殿 金拾圓也 同
同 青木 謹吾殿 金拾圓也 同

八木 角次郎 矢次 熊雄 矢吹 憐悟
山田 董平 山下 潤藏 山崎 祐四郎
山崎 忠雄 山下 正一 松崎 時政
松宮 龜二 横田 保 益山 策廣
藤井 義範 藤下 憲治 福田 俊次郎
小泉 清志 五島 三右衛門 江藤 清澄

海老塚進一	阿部與五兵衛	朝田 惣七	酒井 隆吉	澤田 權左衛門	定金 八惠	木村 邦彦	木村 福藏	京阪 重雄	美佐 拾治	島田 恭平	下島 平治	日比 東	廣瀨文之助	平井 文三	森川知二郎	關口 泰輔	菅生半次郎	末田 傳雄	鈴木 誠一	井堂 眞澄	入江 千治	今井安太郎	今井 光輝	池田晴次郎	石川 正治	石川 秀漢	石垣猪之吉	石田 善佐	芳賀 榮造	馬場 達治	馬場 久雄	戶塚英之輔	鳥越 正三	德田 高二	時山 美則	富永 貫一	大西 正治	岡田 政司	加賀美盛治	香河 利雄	川口善兵衛	川又誠之進	金子正次郎	笠井仁三郎	橫山 正藏	田中 稔	田島 一郎	高橋寅太郎	高木 弘	高見與一郎	高島 長元	高木 秀雄	竹田 虎雄	對島 尙象	難波 虎男	上塚 眞熊	上塚 西藏	野川 義章	野村 甚作	野澤 卯市	久原 碩	久保喜八郎	黑河內英二	栗原 馨三	串戶眞佐樹	山本 保	矢倉岩次郎	谷田川元保	眞弓甚五郎	前中 政榮	松岡誠一郎	松澤 一松	松澤 知司	小泉伸三郎	小林 博	小暮 省三	後藤 盛次	郡山 淳	手塚 麒一	阿南 卓	赤堀 秀雄	熱田 助	新井 忠吉	佐藤 知信	佐藤 與一	水内日出高	清水 勝一	島田 博	進藤 行雄	比佐 昌平	平田 保	森 美之輔	森本 宋	妹尾 榮治	杉浦 武夫	角 逸三	鈴木 敏一	鈴木 彌吉	柳川 豐治	石原善三郎	石崎忠三郎	原 富太郎	長谷川良輔	針重 敬喜	花井俊治郎	細谷 鏡三	星名 鐵作
戸川 虎雄	陳海 起	李 盛 衛	小川爲次郎	小田原 勇	小野 靜	小澤 榮	大畑 正行	大久保榮作	大森常太郎	和田秀次郎	片岡 達吉	金子 宗二	金子 悅郎	上山 貞亮	田部井市助	田邊郁太郎	田中 騰太	田中正治	田中 源四	多羅尾織市	谷田俊二郎	高田弘太郎	高杉 平治	竹田津昌房	武嶋 祐吉	瀧澤 志郎	栢植 昇	中村 新輔	中壁 俊三	鷗池 五郎	野澤作太郎	八塚常一郎	山田 眞恭	杉浦 義泰	松田 昇一	松本 元	藤田兵次郎	小泉 譽	小林 邦藏	小林 節治	小泉 環	後藤 忠義	駒田義三郎	江澤 欽司	遠藤 虎二	出口 眞言	青木 俊治	赤尾茂三郎	秋山 篤英	齋藤 久吉	齋藤眞三郎	齋藤 民治	齋藤 正司	澤井爲三郎	酒井與三郎	貞田 直輔	櫻川 省三	崎濱 秀主	紀伊 末雄	北村 勤	菊池 惟中	三上 傑男	三俣淺次郎	水野 三治	南 守一	宮坂 庸三	宮本竹次郎	志賀 春雄	白尾寅千代	廣瀬 光顯	平井 義陽	平井 志朗	平泉豐三郎	平野 德治	平木 太市	持田 宗治	森 九十郎	森元 勇	關 信正	仙石 久吉	洲加本孝三	砂川 雄峻	鈴木要太郎	鈴木 幹三	早川 榮吉	橋本彌吉郎	新名 直和	西原 仲次	綿織 重之	保住 幸生	富永 悦三	尾花卓之助	大林 茂夫	大濱龜太郎	大内源一郎	大石 善三	奥村松太郎	川福 豐藏	河田 忠彦	上川 季吉	高林 正	高田 十郎	高根澤長重	玉江 文雄	武部 毅吉	成田直一郎	中村彌一郎
永田久右衛門	村山龜一郎	久保德次郎	久保内 智	栗本 吉松	岡分 衛	山中 隆義	山角 廣義	丸宮 重太	藤田幸太郎	福島 忠一	五泉 賢三	後藤 政平	後呂 信吉	後藤 正司	江守 照	遠藤 正賢	寺田 忠夫	有地 行一	天野 康夫	朝比奈 茂	雨宮 景治	酒井 慶一	木谷 辰巳	木内水太郎	北村 順	吉開 福松	美土路昌一	宮城 全通	志田 正雄	柴山 守康	島田 豐松	日戶 傳章	菅沼 三彦	鈴木 世觀	井手 德一	稻垣 伯勝	林田顯之輔	遠田 孝三	豐崎 和平	千頭 正德	奧村 茂敏	加藤 龍	桂 充	吉田 宗德	田伏 常助	田島 爲治	多田七之助	高橋 政和	宇田 隆三	上田 確郎	野本 靜治	久保 熊治	熊谷彌之助	舟橋清一郎	福岳圓太郎	福井 朝久	小島 英之	江上 秀靜	安成豐三郎	秋山 寛	安達熊一郎	齋藤英三郎	櫻井 好雄	木村 知義	岸田 剛	三輪 信字	三田村平太郎	三宅 隆一	篠原 福壽	樋口一五郎	平木 均平	久野 三止	千石 光雄	杉田 城平	板野 利二	旗崎 直三	濱田幾治郎	新宮 公民	堀田 憲治	星野 寅次	富澤 生壽	飛山桂三郎	大谷 貞三	大塚 鈴男	大森 財藏	岡本 慈航	加藤 雄其	龜井喜一郎	寄氣 實明	高山 謙助	辻 巳之吉	成相 明雄	中西 淳亮	中野傳三郎	桑土 一任	前田 彦藏	曲山 公平	松園 進	小西 益三	小高 次郎	小玉檜次郎	朝日 貫一	佐々木安一	齋藤茂壽郎			
桐山 新一	岸 節造	三浦 義郎	三崎 正敏	水谷 眞七	四天王正實	清水 滋	下村 壽一	守安善二郎	森 安吉	森内英太郎	森本 潔	杉浦謙次郎	鈴木 和藏	岩井 岩城	生島清次郎	石原 光三	石丸九吉郎	星野清太郎	別府 敏治	禿子 諦成	小川 敏也	大濱 敏治	大森 義雄	太田 義隆	岡田 博	沖口 圭介	岡田彌一郎	脇本 彌	賀 嗣章	金木 九萬	田中 弘一	高村 光次	高木 正次	武本 康一	高橋 廉甫	孫 永 嵩	土田彌惣治	土屋 虎一	中村 幹雄	中野再五郎	中島 富造	宇野 武	信次 佐一	黑木 常吉	小松崎 清	小島 省三	近藤 基喜	遠藤 太郎	阿部 泰直	相部 一郎	青木 正巳	朝野 秀二	淺香 寛	佐藤 靜	木下 生盛	佐藤千吉郎	湯淺 新策	宮崎 重助	宮崎 省吾	下條 治恒	木橋力之助	森 了一	森田茂三郎	杉本 貞一	鈴木 英夫	池田作四郎	橋爪 甚平	西村元三郎	小野 龍一	岡本 千	加藤 新	加納 幸雄	門間 令助	笠原實太郎	神田源次郎	横塚 茂平	田邊 秀雄	田中 一男	竹内 四郎	土屋金太郎	中村新四郎	中山 榮一	栗原 雅信	倉兼 謙吉	矢野 穰	山田文太郎	山本 茂治	山崎眞一郎	山下 盛澄	木下 忠六	見目 清	坂本 實智	森下 政一	瀨藤 義三	鈴木 重三	生駒吉之助	池島 誠三	林 秀松	戸川鶴次郎	大西 義夫	大塚清一郎	堀川中三郎	堀本 武一				
吉田 信彦	立野 正夫	名久井石慶	中村 眞三	長濱信太郎	漆畑 元吉	上野 米吉	久保田德爾	黒木 茂	山邊 曲	山口 元實	藤堂 晴美	小原 四郎	亥角 仲藏	青木 玉次	彦田 絹二	森田 賢作	杉浦 智郎	猪野 利猛	磯谷幸次郎	石橋 信雄	石橋新次郎	原田忠一郎	原田甚四郎	新垣 隆憲	鳥取爲三郎	力石 知義	張 德 秀	渡邊治之助	加納鶴次郎	川口喜一郎	梯並 七郎	朝 圭 復	田中 隆藏	田吹 軍喜	伊達 俊光	谷口 清次	高市 義寛	高森幸太郎	竹尾新治郎	武田 尾吉	土屋 實造	牛江 卯助	中島 好郎	永山 孝造	長安 保二	難波 俊	迎 忠 鏡	村田 光烈	海野 幸秀	宇治田種雄	内田 龍吉	上野 清彌	上野 秀磨	植松 千次	久保田 眞	山口 定意	山本 真知	安井 信	安永 博	山田千代松	松谷熊三郎	松岡 哲	益子 運輔	藤井 卓	後藤祐太郎	近藤 正之	荒木 章	秋山 成光	佐伯 進一	佐藤幸四郎	坂入 久雄	水下宗二郎	北村 一郎	三苦 潔之	三宅 弘毅	明田 三太	清水豐太郎	樂田 英東	島 利七	平山富太郎	千田 傳一	須藤 榮吉	住田龍太郎	西田 稔	今泉 丈吉	橋本 關	新谷準一郎	西谷 進	朴 珪 圭	戸田 敬悅	富永順太郎	李 克 謙	小谷幸太郎	大橋 昇	大岡 忠友	大野 邦憲	大山 萬吉	音成 繁雄	和氣 輝太	綿貫 芳雄	加藤 克巳	堀川中三郎	片岡 頼義	田中德次郎	堀本 武一	堀 照	甘樂辨次郎

中根 和一 永沼 留雄 長内 健榮
長野 重臣 鶴川 富男 氏家 寛助
上田 誠 牛島 隆 野澤 俊一
栗原 精 山脇 惠助 山田喜兵衛
山崎 義雄 前澤 重雄 松岡三五郎
牧野 成 升本 欽治 増尾 勝三
増田 知吉 増野石次郎 藤本 菊一
小林 兵彌 小島 文雄 手塚 安彦
淺沼 賢一 柳原 直 木村 松藏
三輪 留造 溝口 伴六 水野 猿
峰川清次郎 廣田傳左衛門 鈴木 謙
石川九後太郎 原 重文 濱島 傳吾
陳有 豐 小幡 暹 緒方 竹虎
岡本美根夫 片山 英作 高橋 勲治
野村正一郎 野尻 義孝 栗林 謙輔
久田 保 八坂 甚二 山縣 豊二
山田伊太郎 山中仁太郎 山本 荒吉
山本重太郎 矢柴 匡雄 増田 正三
松井 幹 松村 貫一 柳 祐太郎
平澤 一男 長谷川浩二 汪 振聲
神川岩次郎 横田愛三郎 植田 整三
口入田覺了 安井 馨 青木玄之助
板橋 卓一 石川 宗義 太田 義雄
小田切金治 村原 保 増山 明
福井 茂一 日比 重順 井上辰九郎
内藤 久寛 安田善三郎 本田 親二
尾上 八郎 岡田淺太郎 大田原 一郎
香川 冬夫 桂 五十郎 神谷 健夫
吉田 享二 田中 不二 高杉 瀧藏
武石弘三郎 立石 謙輔 内藤 多仲
中西 用徳 長屋 修吉 浮田 和民
野口 尚一 久松 康吉 鯨井恒太郎
柳川 勝二 山崎 直二 山本 忠興
松平 康國 松縄 信太 牧野 鑑藏
増田藤之助 藤井鹿三郎 福原 俊丸
小林 久平 山室 靜夫 淺野 應輔

佐藤 功一 佐竹 三吾 木村 久一
島村他三郎 瀧澤 元治 杉 種次郎
杉山 重義 杉山 令吉 志賀 重昂
辰野 隆 三宅雄二郎 井上 正直
井上中三郎 井關 榮司 伊豆 富人
飯坂 留雄 犬飼 昇 岩堀 智道
岩本 堅一 巖谷 冬生 今宮芳太郎
堀江 宏 星野新八郎 星野 銀吉
本間良太郎 本間 勇吉 逸見季次郎
土井 潔 遠山 二郎 樽野 茂
小野寺 剛 小澤 一雄 尾崎義三郎
尾關 光藏 大橋爲次郎 大岡 胖
大谷 修也 大槻 音松 大野 棒治
大久保清志 大島 忠雄 大島 保義

謹告

拜啓御清榮奉賀上候扱大正十年度本會維持費受領の爲
め東京市内御在住の會員各位に對しては東京集金社員差
遣可申候間何卒御醸出被成下度地方の方々は振替用紙
挿入致置候間何卒御醸出被成下度地方の方々は振替用紙
續被成下度願上候從來の經驗に徴するに集金郵便の方法
は偶々御不在なるときは直に期限經過の理由の下に用捨
もなく返送せらるゝもの實に驚くべき多數に上り且つ又
中途紛失も尠からず又一方には督促がましとの感を懷か
るゝ向も有之様に候間一先づ振替郵便にて御願申次第に
御座候何卒事情御諒察の上御醸出の程願上候 敬具

大正十年二月十日 早稻田校友會

校友會員各位

池原 順平 家富 重尙 石井 信二
石原 通夫 石橋規矩四郎 石館 久三
石澤 享助 石坂 靜一 長谷川誠也
花園 兼定 原田 雄次 早川 了祐
林 修三郎 林 末三郎 濱田 四郎
濱田 廣助 西川吉太郎 西村 象藏
西村 新助 西牧 季造 堀江 嘉平
大隅菊次郎 太田 周平 岡野 正男
岡野 孝吉 岡崎 重藏 奥谷 庄治
奥山 一雄 渡邊 寅治 渡邊新三郎
渡邊 忠慈 渡邊代五郎 渡邊 隆
渡邊 操 渡邊 和用 浦野 廣作
臨田那一郎 鷺津貞二郎 加藤保之助
加藤 美倫 加茂興三郎 樺島 信福

川原田政太郎 川邊 眞藏 川村 繁則
川崎 新吉 川本九右衛門 金原 省吾
金子 健八 金子佐一郎 金子 寅雄
銀松榮三郎 笠松 實 柏原 要
神田 匡平 横井亥一郎 横澤 正督
吉田 五市 善生 永助 吉原福三郎
吉富 令藏 喜安藏太郎 吉田 淳
吉田 利貞 吉村 繁俊 吉村 慶夫
吉澤 清藏 田邊 英生 田戸 茂八
田中 收吉 田中喜太郎 田中福之助
田中丁三郎 田中啓次郎 田中八穂平
田中 潤一 田村 三治 伊達 光美
谷崎善三郎 橋 繁三 高橋 興一
高橋 八郎 高橋 彦重 高橋 康平
高谷 文内 高坂久太郎 高崎順一郎
高木 光教 高須 鐵造 唯根 伊與
種市 眞實 玉置 鄭次 竹林磯次郎
竹中 保壽 竹中 正雄 竹村 佳康
竹村溫次郎 竹内 綱三 竹内 新七
竹内善太郎 竹下 文隆 瀧川富之助
瀧澤 俊夫 園田 格 椿田 文藏
鶴田 政雄 塚本 賢曉 筒井 勇
角田 文雄 根本 嘉 内藤 眞助
内藤 三介 中西 雄洞 西川又二郎
中田 武男 中村恭太郎 中村 仲
中島半次郎 中森 利平 永井柳太郎
永尾 文吉 永田 幸一 永田 衡吉
永谷武右衛門 永島富三郎 長沼 正文
長島 一夫 村井 五郎 村上清一郎
村田 最一 村田 修二 村田 貞次
村田善一郎 村田榮太郎 村山 欽治
村松 武夫 宇治川眞太 宇佐美眞造
内山 正居 海部 二郎 白井 榮壽
野呂 五夫 野中太郎 野々村良躬
野々村敏六 野澤孫太郎 野本福太郎
久世 敏正 黒田 保次 栗原 松三
栗山善之助 倉田 陸介 倉田信次郎
熊崎武良溫 釘宮 極 八木 勲作
山田英太郎 山田 義一 山田麟之助
山田辰五郎 山根 武雄 山名 義高
山口 武 山本久太郎 山本敏太郎
山本 文雄 山本 榮藏 安井 盛三
眞方 敬一 前田 勇三 前田 一
丸屋 松彦 松井 敏 松田純一郎
正山 三郎 松谷善三郎 松枝 保二
松本 光史 牧田清之助 増田 義一
藤田 春吉 藤田 和夫 藤野 久雄
藤澤安三郎 古川 脩策 古矢 林平
二上 徳藏 福井 庄七 小祝 武雄
小泉 一雄 小出 益次 小山 溫
小林彌重太 小林 梯司 小西久太郎
小山 三郎 小柳 寛一 小松 林藏
小松 榮 小峰 操 小島 莊次
兒島 富雄 後藤 勇 河野安通志
河野 應 河野 魚 今周 而
近藤 靜郎 近藤菊之助 枝本 幹太
遠藤 精一 遠藤富次郎 遠藤順吾郎
寺尾 元彦 寺田 茂照 寺澤 信計
阿部又二郎 阿部 衡平 淡近 越夫
相見 襄次 會津 八一 有馬 重男
青柳 隆治 青木 謹五 赤津亮次郎
赤松 六雄 東 清重 荒川 敏雄
淺岡 哲 淺野 玄府 淺見金三郎
朝倉 慶友 蘆田 秀雄 安藤政治郎
安藤 正純 佐伯 好郎 佐藤甚九郎
佐藤 貞二 佐藤 靜雄 佐藤 完憲
佐藤榮巳太郎 佐治敬吾 佐久間小一郎
佐々木一義 佐々木宗勝 寒江江堅吾
西條 八十 齋藤 隆夫 齋藤次郎
齋田 清喜 澤口 育三 坂入 實
坂口 鎮雄 柳原文右衛門 木村 寛平
木内義太郎 木島 慎一 清田 玉吉

東京 武男 北澤 平藏 北村 孝成
三好 七郎 三谷貞次郎 三谷 昌信
三浦 憲三 水上鐵治郎 三宅 晃
宮本 昌常 志手 環 清水 時松
清水 覺夫 清水德太郎 白木 正光
白鹿武三治 芝野 藤平 篠原 綱吉
桑田 正 鹽 長藏 鹽田 敬吉
篠崎彦三郎 島富 榮 島田延次郎
島田 武夫 島田 胤英 島津 和美
島中 雄作 重友 芳夫 重城 康三
森谷 三 下村清三郎 日根 周二
日比賀三郎 久松 定省 廣政 幸助
平野 二郎 久岡 九郎 望月 政三
毛利德三郎 妹尾房次郎 瀬戸 佳六
瀬川 光行 須賀 憲二 末高 信
杉田 榮次 杉溪 言長 杉本 光治
鈴木 太郎 鈴木 伊十 鈴木德太郎
鈴木 宗七 鈴木 瀨平 鈴木德太郎
鈴木 孝助 鈴木辰次郎 瀧澤 長康
盧 俊 沐 服部 二三 林 爲 真
林原 憲貞 德元 八一 陣内 喜三
大内孫次郎 岡崎 主計 溫水 實孝
加來淡二郎 添川行一郎 立木 圭吉
教賀清三郎 中川小十郎 永元 政之
濱打 義也 幸田 厚隆 村田 榮
宇野 郎成 内山 省吾 植木 坦
白井 達 能美 輝一 野澤富七郎
館田 光子 山邊 學太 山村勝次郎
前川 左京 前納 光三 丸山宗次郎
松原淳太郎 松村育太郎 松村 勇
松下 吉衛 山林 德藏 小柳 覺
青木 重嗣 秋谷 隆清 淺野源次郎
齋藤 幸三 氣比新二郎 喜多 一重
菊地 真造 鹿田 秀夫 井上 昇
磯前參次郎 林 清吉 西原 政太

土肥 敬治 富澤 義圓 陳 國權
尾崎 義兵 大澤源之助 岡 治逸
奥田 秋實 若林外基雄 荻野 巖
渡邊 守一 鷺見 歸一 嘉納虎太郎
川島 憲治 欠畑 文雄 笠島 善一
橫瀬 乙吉 四淵 豐吉 高橋 喜又
玉川 保藏 十龜 道雄 中島留三郎

山口 衛 山田直三郎 的場松太郎
松野七十二 松野源九郎 増田 松榮
増永 繁藏 藤原 忠 古川 二郎
福地 新次 舟橋金次郎 小林 博愛
小林 正氣 小原 政教 小崎 文治
兒島 六郎 勅使河原彦十郎 相原俊夫
荒井 兼吉 安達 勝之 佐藤 祥一

謹告

拜啓 陳者大正九年度校友會員名簿(修正
増補)は昨年末夫々發送仕候處年末年始郵
便物輻輳の爲めか行先不明等の符箋付に
て返送と相成候もの不尠有之從つて中途
紛失のものも可有之と推せられ候就ては
今日に至るも尙未着の方々には何卒此際
至急御申越被成下度願上候 敬具

大正十年二月十日 早稻田大學校友會

中島 司 永富 昌 永田善三郎
永田詮六郎 長浦重三郎 長坂嘉一郎
務台 光雄 宇高 寧 上野 憲一
梅原 琢次 野見山岩太郎 野島 八郎
日下部吾策 草皆 久治 藏野 惟親
矢守萬兵衛 養父春太郎 山田 正世
山中 貫一 山村 五郎 山田 聖吉
齊藤 拾六 坂梨 繁雄 櫻山 四郎
宮 信一 島崎 貞三 廣田 義義
平井 六松 關戸 寅松 鈴木吉兵衛
李士 偉 長谷部隆晴 上田 秀道
勝呂 彰 扇浦 義一 渡邊省三郎
増田 松榮 島田 兵藏 石月久太郎
中橋彌三郎 松原 敏夫 木曾三四郎

森 貞次郎 長谷川 進 永井順一郎
八木淳一郎 喜田 憲男 鹽原 貞治
百束於菟雄 杉野 丈吉 鈴木堅三郎
長 龜男 片岡松三郎 竹内喜重郎
中村 郁郎 中澤 正七 成田 昌德
久保田 清 八幡 輝一 松本千太郎
水島彦一郎 進藤 勝吉 廣重 二郎
鈴木孫三郎 蟻川 章 木塚 牛三
池田 省三 井田信太郎 伊東 幾太
今村 朝信 石森 勝哉 原田 鎗三
新妻 武雄 西村 清 本間清一郎
戸叶悌次郎 布居 賢一 尾崎 長六
大宅權太郎 岡本 隆次 岡村 喜之
掛下龜二郎 柏倉 草甫 覺張半四郎
田中鶴之助 田代 正直 高野 康雄
津守 雄介 都築 謙雄 中村三男吉
中尾清太郎 鍋島秀太郎 宇佐美 胖
野村 由巳 野田龍三郎 山田 純忠
山口 誠象 松本與吉郎 栗之池 智
來田太三郎 福田 市平 小宮寅之輔
小出 順造 安部 孝造 齋藤 泰治
佐野 貞助 木村 謙一 木村 晴光
菊池 松義 三村 宗一 宮本 諄
峰 彌太郎 三村 五郎 三浦榮次郎
水野 寅治 下島 茂 清水 定勝
望月 謙彌 森岡 廣作 森 六郎
森永 彦二 鈴木 重孝 伊藤 定一
岩佐 重一 岩倉 文祐 石原又三郎
鳥澤 一郎 富田敏三郎 河合龜太郎
田口 武夫 伊達桂一郎 中島 勇
成清 卯三 村井 泰造 上田 武弘
山脇 虎彦 山本信一郎 前田 利融
藤野 崇正 福島德太郎 小池 真吉
小林伊太郎 照林 其雄 瀧美 重雄
佐竹勇一郎 喜多 義之 白井 文彦
廣田 治 須網 護行 小松 鏡吉

長谷川豐作 土肥 常七 大關誠一郎
橫山 信男 吉岡 利雄 田中利喜太
田村 近藏 中村 豐雄 中西 順二
鳴海清次郎 村上 友人 向山 政恕
村田勝之助 梅野 滿雄 國澤 秀雄
野田英三郎 矢口長右衛門 小林保三郎
江崎 準繩 遠藤嘉右衛門 坂本 隆二
鬼頭 誠 三船修一郎 水野 春吉
水品 昌治 島野 金吾 菅野 忠恕
入作 龍丸 岩澤 新平 島山 龍若
濱 元藏 堀内 靖也 戸田 光慶
千葉 繁造 小野 修吉 小田 榮次
片山 豐 吉川 周吉 田川 道英
田口 幹夫 田代田三郎 高橋 昇造
高橋 秀 中田要三郎 中村 雄二
野村 完六 黒田 五郎 安田 善造
安岡 大年 出羽 正也 佐藤 環
崎田庄三郎 三浦友三郎 島澤 義忠
關谷 透 杉山保三郎 伊藤 德治
原 發太郎 堀 音吉 大塚三男吉
田中 榮重 高岡 次作 瀧 桑吉
中田 正輔 勸柄松之助 右田 爲作
山田 敬爾 山本 茂樹 古川 鶴三
小林 誠諦 寺田 義勝 有田 朝一
荒巻巳之助 荒井千代作 安倍 邦吉
木山 弘 北村 松丘 北島 幸雄
北村 賢瑞 三浦長兵衛 平城陽太郎
平林朝次郎 平野 平助 徳本 賢一
友杉滿壽郎 宗田 惣一 原 辻松
本多 瀧藏 吉原 武嗣 田中與四郎
津田 銀雄 松坂 辰巳 小澤國治郎
細野 孟平 坂本 治朗 猿田 春景
喜田村正久 上村安太郎 久佐賀義直
國領 榮一 小林 延三 赤星 端
里 兵衛門 内藤 正規 仲山藤一郎
山本 四男 山口善太郎 小林 定雄

相内 助賢 雨森清三郎 坂東 知重	金 夏 殊 橋川真一郎 菊池 明夫	宮 正央 平松 得一 小野求太郎	山口 民策 田中 義一 木下 貫治	都築 謙治 本間 信吉 大木 康孝	土岐 二三 阿部 仙司 佐野格之介	淺川 湖郎 鈴木 明良 堀本美之作	大畑 定一 高橋 振作 松永 功	永山 幸一 山崎 篤造 三好 糾	加藤 正造 西井 三郎 程島芳一郎	岡部 大次郎 川邊秀次郎 蒲原 賢次	並河 正一 中野 正治 安藤金三郎	竹内 明太郎 一戸 直藏 岩田 一郎	堀 維孝 富井 六造 小田内通敏	大東直太郎 大瀨基太郎 渡 俊治	渡部寅二 田中 喜一 宇都宮 鼎	内々崎 作三 氏家 謙吉 山本 五郎	山本八十吉 安部 磯雄 浅井郁太郎	崎田喜太郎 北澤 武男 岩本能武太	重見 簇 清水 孝藏 中村康之助	椎尾 辨匡 井田 三郎 井上 興一	井出 久一 伊東 繼司 上井 磯吉	伊地知正輔 飯田新太郎 飯田定次郎	飯塚 牛衛 市川 勇 市川 堅吾	入船 勝治 犬塚 貞雄 犬塚 登	犬塚 春芳 岩井 武雄 印牧 順作	岩谷 英男 岩崎 吉勝 稻葉小太郎	稻毛 金七 猪俣 泰作 生島 勝一	今橋 稔一 今西吉次郎 今村 停三	池上 芳周 池田 龍一 石井 真藏	石井 昭資 石井 佐仲 石井 賴一	石野 彰 石黒 龍一 石丸 正誠	石澤 愛三 土師 寅造 長谷 敬止	長谷川島太郎 長谷川亮三 配川 恒雄	壇原 正直 八田 喜三 秦 滿	原 忠篤 原 久一郎 原田 讓二
原田 實 伴野 賢造 早川 理三	林 秀彦 林 誠一郎 濱田宗三郎	橋本 清吉 橋本 義明 仁平 久純	丹羽 幸夫 西岡秀之助 西尾 敬介	西村 益夫 西岡野半次 西山巳之助	錦織 幹 堀 榮二 木田 廣二	堀口 馨次 堀江 武治 細井 辰雄	星野 光三 本間 久雄 十枝 省三	戸塚孝兵衛 鳥海 岩松 遠山 景久	豐田 直通 巴 利三郎 富山 源吾	千早 正寛 岡 定次郎 沼尻 道利	小川 儀平 小川 忠淳 小川 金吾	小笠原武志 小倉 秀道 小澤増太郎	尾形龜五郎 尾崎 勝己 小瀧 長雄	越智 類次 織田 隆 織田 寛	及川勇五郎 大場 昇助 大塚 氏明	大塚 彦治 大内 暢三 大野 芳廣	大山 嘉藏 大山 眞 大山 友次	大古田要一郎 大崎喜八郎 大島 親貞	大森 音吉 太田 哲雄 岡田 猛熊	岡田 公輝 岡田 三郎 岡村 衛	岡崎 幹雄 奥田 敦 荻窪 潔	和田 信次 和田 善次 輪湖 正田	渡部 任 渡邊 亨 渡邊太三郎	渡邊 淳 渡邊 陸郎 渡邊 幸三	加藤松四郎 加藤龍太郎 甲斐原四郎	鹿島久四郎 春日井太助 鹿毛 三吾	鹿島 増藏 川崎 信顯 河部 泰雄	河内富次郎 片山 三郎 片山 英次	金子 美隆 金子 一勢 金子 柳藏	金子 雅志 景山 俊夫 金澤 孝治	笠羽 清吉 垣見 齊助 柏倉友之助	風間 直士 神 絢一 米川勇之助	米村嘉一郎 横田 寅吉 横田季六郎	横田 信義 横矢 重道 横山 勝事	
横澤源三郎 吉富 直純 吉岡 正夫	吉川 巖 吉田與一郎 吉武 巖	吉村 正彦 吉村慎一 田部井慶三郎	田川大吉郎 田邊 眞平 田中 傳太	田中小太郎 田中 稔 田中彌三郎	田中 昌平 田村 基 田村 鼎	田村 久作 田村章四郎 多田 憲一	伊達甚太郎 谷 信次 谷 富賀志	田坂 誠三 谷野 治越 谷口 守雄	立花 貞尋 立川勇次郎 橋 義一	高橋 章正 高橋 三郎 高橋 郁二	高橋 初藏 高橋 正次 高地安治郎	高野 利人 高澤演之助 高木 環	高木 勝藏 高瀬 孝仁 辰巳善治郎	竹内 房治 武市 彰一 武市長次郎	武石 雄三 武石揆一郎 武田豊四郎	武田 孝 瀧川 三郎 瀧澤 永二	添田 富藏 副島 義一 樺 強 祐	土屋龜太郎 常政 眞作 露崎 滿	辻 同次郎 辻 一郎 辻 德四郎	辻村 直 辻本太太郎 根岸 政一	内藤 義勇 内藤 安城 鍋島 博	成田錠之助 中井虎太郎 中井 保	中原司馬雄 中川 次郎 中川 龜吉	中村常一郎 中村 吉藏 中村 鎮	中村 一英 中野準三郎 中野 勇平	中澤善右衛門 中島 忍 中村 德行	中島 義應 中島半三郎 仲宗根玄愷	永井 勝造 永川 俊美 長澤 倉吉	室井 平藏 室屋基四郎 宗川 保	村上直治郎 村田 耕藏 村田 昌治	村田 健次 村山 鼎藏 村松 孝一	卯木國三郎 宇田川政吉 宇佐美友次郎	鶴澤 宇八 内田豐太郎 馬屋原仙一	上原 鹿造 上田 輝雄 植木 茂一	梅田 清 白井 胤 野村 堅
野口 喜一 野口專太郎 野口 爲義	野澤 貞利 久保田實宗 久保田 勤	久須美東馬 工藤 清藏 黒岩 哲治	黒川録太郎 黒川 清 黒板 五也	國島和十郎 栗原 一平 倉辻 明義	草村 松雄 楠山 正雄 矢幡小太郎	矢田彦太郎 矢田 芳造 矢内 榮次	柳澤 泰爾 山川 端三 山縣 昌一	山田 精治 山田 兵吾 山中 鐵	山ノ内 弘 山内興三郎 山口 巖	山崎定太郎 山崎 源吉 山崎 久作	山本 忠俊 山本 義之 山本眞太郎	山本 治郎 山本外三郎 山本 拙郎	山森 利一 山住於儀人 安元利市郎	安間 一夫 山田 丑藏 眞野 官一	岡庭 隆一 前田 利功 前田 三郎	町田 歌三 町田 輝 丸田喜二郎	松野 祐裔 松井祝喜治 松家徳次郎	松橋 勝 松尾 孝輔 松岡 正一	松谷 徹 松浦誠一郎 松浦 進一	松澤 禮三 松本恒之助 松本 繁吉	松本 理一 牧 善三郎 樹谷 留吉	濱井増次郎 増田乙四郎 増田四一郎	増野 薫 満所信太郎 藤井 信	藤原 忠吉 藤川 年 藤田 貫治	藤谷 元泉 藤野 智照 藤木 恭道	藤本 龜三 古川不二雄 古川 忠治	深川 清英 深江基太郎 舟崎 中三	船田 清治 福田 喜孝 福永 宣吾	福味 文郷 福代覺三郎 福島 琢郎	福島 幸治 福森虎次郎 小泉 演	小林 貫一 小林 堅三 小林 一茂	小林 龜次郎 小林 徳重 小山 蕃	小松崎吉雄 小森 寅藏 小杉 寛	古賀 貞雄 古賀 勝 兒島 英俊	五代 竹夫 午來 丈助 河野 九峯
河野 助入 江藤助一 海老澤了之介	遠藤 民夫 寺師 英麿 阿部 徹眼	足羽 忠道 栗屋 忠夫 荒井 眞祐	荒川 潔 新井 練三 新井 鉄一	淺田 祐介 淺野泰治郎 朝山勇四郎	朝比奈九郎 秋山惣次郎 安食 高尙	安藤 喜作 甘藷生規矩 佐伯 唯一	佐藤 三郎 佐藤吉六郎 佐藤 桐松	佐藤 昌尙 佐藤 堅司 佐藤 桂次	佐野 義美 佐野 昇 佐々木 政徳	佐々木 延 佐々木四郎 佐々木 五郎	齋藤 義一 齋藤春太郎 齋藤 泰三	齋藤 末吉 齋藤 未學 齋藤 捨藏	里見春次郎 澤井茂吉郎 澤木 寛一	坂本 時雄 坂本 玉一 酒井 寛一	定金石源二 櫻井 重雄 笹本 房吉	崎山刀太郎 木原 三 木村善之助	木村 壽雄 木村 篤二 鬼頭喜三郎	菊池 謙讓 桐山 均一 衣笠 醇	岸 元一 岸 浩三 岸田 熊雄	岸田惠太郎 北村 淑人 遊佐 慶夫	三輪 清吉 三好榮次郎 三宅 當時	三島 眞藏 溝口 信 溝口 雷太	光信 壽吉 密田眞太郎 三淵 忠彦	満田 徹 水上 新 水谷 弓彦	水谷房次郎 水野 惠 蓑島 亮	宮部 敬治 宮川 恕 宮田 濱一	右田右武雄 志村 悌 清水 眞輔	清水 泰次 清水 民造 城田鶴五郎	柴田 勝 志水 直彦 柴崎 市郎	庄野 信治 庄司 丈夫 篠原 惠作	島村 茂穂 渡谷餘四郎 下宮 六郎	島田 健治 日置徳太郎 日吉 武雄	日高 只一 日向 毅 日野 正信	比真 正吉 廣瀬 濟 人見 修藏	平井 秀男 平井 勝衛 平川 三郎

田眞 西田八十一 日比野信一
平野 高 平澤兵之助 久恒 立雄
森 秀雄 森岡 格雄 森脇 萬
森川 石抹 森田得二郎 森矢 懿馨
森島支三郎 瀬下源三郎 關 和知
關川 常雄 關根弘之助 關口晋一郎
關口 達三 關屋 正元 須藤 芳雄
須藤 哲二 諏訪 岡雄 杉井初太郎
杉浦 幸一 杉野 健治 杉坂 源清
角取 康榮 角谷 伊藏 鈴木幸太郎
鈴木 文元 鈴木佐平次 鈴木 常吉
鈴木 理平 鈴木 敬義 井上 辰馬
橋本傳左衛門 横田 晃朴 團野 新之
中村 宏 永瀬 博 宇高 信一
江島 竹彦 遠藤 隆春 新井 昌平
佐竹 龜 根良 完 齋藤 朝士
木村利三郎 平岡 伴一 市原 眞治
橋本 松次 木田 備 小田井紫朗
堅田 友助 高村 越一 山田 直臣
赤廣 助雄 佐藤 利彦 比嘉 賀成
大橋 榮 玉木 武則 倉富 了矣
遠藤 金吉 栗村豐太郎 伊藤 基
山口 英男 廣川新十郎 石橋 哲爾
堀 勇吉 海塚彦三郎 久保 猛男
松田 毅 藤井 仙吉 藤原 廣治
宮本 繁藏 平山 忠善 新田 憲弘
柿本由太郎 大倉 隆一 太田孝太郎
高橋 鐵造 宅間 光次 竹之下英三
武田 晟 山田 直 佐久間 章
宮脇雅彌二 伊藤 衷章 藤 常輔
小林政次郎 安藤 正次 岸 一郎
金藤 一 小竹 正 大野 精一
梅津 七藏 牧田勇太郎 荒木 正紀
岸本 普亮 宮谷 公雄 清水與七郎
豐村 與 渡邊寛一郎 小島 文作
佐々木辰雄 長谷川 憲 李 柏武

長 民太郎 武内 常太 黒田 幸七
野 與八 原科 茂作 林 時珍
鶴田 政太 長崎 治郎 木村瑠一郎
村井吉兵衛 原 嘉道 保科 孝一
戸水 寛人 岡田 正美 酒井 谷平
木村 尚達 島田 鐵吉 伊東 三郎
伊東 五郎 今西 謙也 石川 勝治
長谷川 匡 八田 宗平 原田駒之助
原田 實 白南 蕭 濱口 樽
濱島 清一 橋本 真藏 二木 千年
星野 宗一 本多 稔介 遠田 亮
富田達三郎 小野 義夫 大濱 信泉
大橋 敏郎 大西孝次郎 大島居辨三
大塚傳三郎 岡田 爲吉 大澤 定正
岡村 弘 長田 幹彦 渡 干城
鷺尾 浩 川邊英之助 川村 純藏
我謝 秀裕 横田 吉人 横塚 徹
横山壽惠植 吉田 保榮 田部 信秀
田邊 一雄 田中 直一 田村 又六
田淵 好平 多賀 富藏 多田 満長
高羽 國真 高根 義人 高崎 太平
副島勝三郎 莊 景珂 津田左右吉
津田 信郎 津田信太郎 筒井喜市郎
直村 達也 中村 新治 中江 爲之
並木覺太郎 室 七二郎 (以下次號)

大正十年二月十日印刷
大正十年二月十日發行

東京市牛込區白銀町二十九番地
三十五號

編輯兼發行人 前田 多藏

東京市牛込區櫻町七番地

印刷者 渡邊八太郎

東京市牛込區櫻町七番地

印刷所 日清印刷株式會社

府下豐多摩郡戸塚町字下戸塚六百

四十七番地

發行 早稲田大學
所早稲田大學校友會

社交界の稱揚



健康の素なるカルシウムと甘露味
「サルピス」を合成醸造せるもので
メロンやマンゴステンの様な風味
を持てゐる四季の強壯飲料

カルピスは奇しき力を人に置く
新しき世の健康のため

與謝野晶子

壇詰は酒屋藥屋食料品の店々にコ
ツプ賣は三越其他の有名食堂に

大小 一圓六十錢

特約販賣所

高田牧舍食堂

電話二九九四番

早稲田大學御用
大學正門前

製造元東京日本橋國分商店
株式會社

早稻田大學學生募集

高等師範部

英語科
國語漢文科

專門部

政治經濟科
法律科
商科

高等學院

第二部 (文科)

政治經濟學部
法律學部
文學部
商學部
(新設)
(修業年限二年)

第一部 (理、文)

政治經濟學部
法律學部
文學部
商學部
工學部

第一學年

入學資格
中學卒業者及同等以上の者

入學試験
政治經濟科：(期日：四月六日より)
科目：國語漢文(作)英語(英文)數學(算術)

商科：(期日：四月六日より)
科目：國語漢文(作)英語(英文和譯)數學(算術)
(但甲種商業學校卒業者に對しては代數の代りに簿記を課す)

法律科及高等師範部は四月中無試験(但滿員の節は謝絶す)

願書受付
三月十五日より四月四日迄

第一學年

入學資格
一部：中學四年修了者及同等以上の者
二部：中學卒業者及同等以上の者

入學試験
一部：(期日：四月一日より同月四日迄)
科目：文科—國語(解釋)漢文(解釋)地歴(日本史)
理科—國語及漢文(解釋)數學(代數)物理(力學、波動、電氣、化學(元素及其化合物)英語(英文和譯)幾何—平面及立體—三角)博物(動物、植物)英語(英文和譯)

二部：(期日：四月一日より同月五日迄)
科目：國語(解釋)漢文(解釋)歷史(日本)地理(外國)數學(代數、幾何、三角)物理(力學、波動、電氣、化學(元素及其化合物)英語(英文和譯)幾何—平面及立體—三角)博物(動物、植物)英語(英文和譯)

願書受付
一、二部：三月十五日より同月三十日迄

詳細は郵券三錢相添入學志望科學明記の上照會せらるし

ぬれアの顔

カタイ石鹸

クラブ白粉
本店特製品

顔の
ア
ぬ
家庭石鹸



最も進歩せる電球!

其使用者は榮ゆ! 何故?

電量が非常に經濟で、而も
燭力が非常に強いから、
店の活動能率が非常
に高まる。



三越、白木、松坂屋、吳服店
帝國ホテル、精養軒
丸善書店、
外數百軒御採用

商標 登錄

マツダ

G (瓦斯封入) 電球

專賣特許廿二個領有

神奈川縣川崎町、
東京電氣株式會社
東京市京橋區銀座一丁目
大阪市西區阿波堀一丁目
門司市四本町三ノ二九
東京市神田、名古屋、仙臺、札幌、大連、上海
支所

此切取を添へて
御照會の方
へは説明
書付呈

大正九年三月開業

五百萬圓



資本金

東神火災保險株式會社

本店

東京市京橋區西紺屋町七番地

電話京橋

(長)一、九三三番

大阪支店

大阪市東區北久太郎町二丁目十五番地

電話船場

(長)三、〇三九番

京都支店

京都市上京區二條通東山線西へ入ル

電話上

(長)三、二二九番

神戶支店

神戶市三ノ宮一丁目六十一番地

電話三宮

(長)四、一一四番

福岡支店

福岡市下東町十四番地

電話

(長)二、五〇二番

橫濱支店

橫濱市住吉町六丁目七十九番地

電話本局

(長)四、四八七番

名古屋支店

名古屋市中區南大津町二丁目十三番地

電話本局

五、六三三番

仙臺支店

仙臺市大町二丁目百四十七番地

電話

八七四番

代理店

全國樞要各地ニ設置

取締役社長	根岸鍊次郎	取締役	池田龍一
專務取締役	反町茂作	取締役	矢野慶太郎
取締役	藤崎三郎助	監查役	中島伊平
取締役	岩崎清七	監查役	守屋善兵衛
取締役	浦邊襄夫	監查役	鍵富三作
取締役	神谷忠雄	監查役	廣瀨德藏